

奄美大島笠利佐仁方言の形容詞・談話資料

白田理人（志學館大学）・重野裕美（奄美看護福祉専門学校）

1 はじめに

鹿児島県奄美大島佐仁方言（以降佐仁方言）は、奄美大島の北端の佐仁（さに）集落（鹿児島県大島郡奄美市笠利町佐仁、旧大島郡笠利町）で話される（図1参照）。奄美市役所発行の資料によれば、2021年1月末現在の佐仁集落の人口は249人（165世帯）である。

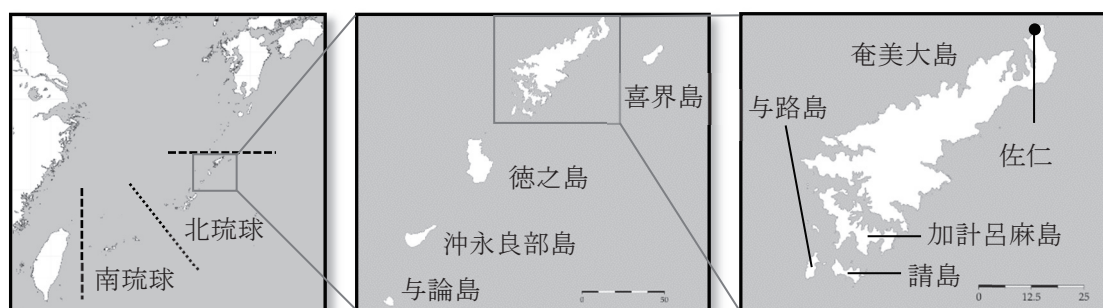


図1 琉球列島／奄美群島／奄美大島／佐仁集落の位置

佐仁方言の先行研究として、語彙集（狩俣 2003）、アクセント付き名詞・用言資料集（上野 1996・1997）、敬語形式の報告（重野 2014, 重野・白田 2018）、モーラ一覧・格助詞と取り立て助詞の文例・童謡「おおきなかぶ」の方言訳（白田 2018）、動詞・形容詞の活用語例・文例及び場面設定会話の資料（白田・重野 2019）がある。佐仁方言は近隣の方言との差が大きく、「言語の島」と言われており、先行研究では主な特徴として両唇破裂音の保持（例 [pana] 「花」、[puni] 「船」）、語頭で広母音、半広母音に遡る母音の前での k の h への変化（例：[hata] 「肩」、[huji] 「腰」）、母音間の m の脱落及び後続母音の鼻母音化（例：[jaã] ~ [ja:] 「山」）が指摘されている（狩俣 2003, 上野 1996, 1997 参照、ただし、本稿の調査協力者の話者には鼻母音は見られなかった）。

以下、2 節で本稿において用いる表記について述べた上で、3 節で形容詞資料、4 節で談話資料を報告する。

2 本稿において用いる表記

佐仁方言の音声（モーラ）と、本稿で用いるカナ表記の対応を表1に示す（この他、長音を「ー」、撥音を「ン」、促音を「ッ」で表記する）。カナ表記は、基本的に狩俣（2021）に基づく（ただし、後述するように中舌母音には統一して「°」を付している）。表中の「ー」は存在しないまたは未確認の音、灰色の網掛け部分は比較的最近の借用語に限られる音、白抜き部分は話者によっては見られない音である。

表 1 佐仁方言カナ表記一覧

段 行	直音							拗音		
	ア	イ	イ°	ウ	エ	エ°	オ	ア	ウ	オ
	a	i	ĩ	u	(j)e	ẽ	o	ja	ju	jo
ア	ア	イ	イ°	ウ	エ	—	オ	—	—	—
—	a	i	ĩ	u	e	—	o	—	—	—
カ	カ	キ	キイ°	ク	ケ	ケエ°	コ	キャ	キュ	キョ
k	ka	ki	kĩ	ku	ke	kẽ	ko	kja	kju	kjo
ʔカ	—	ʔキ	—	ʔク	ʔケ	—	ʔコ	ʔキャ	—	ʔキョ
kʔ	—	kʔi	—	kʔu	kʔe	—	kʔo	kʔja	—	kʔjo
クア	クア	—	—	—	—	クエ°	—	—	—	—
kʔw	kʔwa	—	—	—	—	kʔwẽ	—	—	—	—
ガ	ガ	ギ	ギイ°	グ	ゲ	ゲエ°	ゴ	ギャ	ギユ	ギョ
g	ga	gi	gĩ	gu	ge	gẽ	go	gja	gju	gjo
グア	グア	—	—	—	—	—	—	—	—	—
gw	gwa	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サ	サ	—	スイ°	ス	—	セエ°	ソ	—	—	—
s	sa	—	sĩ	su	—	sẽ	so	—	—	—
シャ	シャ	シ	—	シュ	シェ	—	シヨ	—	—	—
ɕ	ɕa	ɕi	—	ɕu	ɕe	—	ɕo	—	—	—
ザ	ザ	—	ズイ°	ズ	—	ゼエ°	ゾ	—	—	—
(d)z	(d)za	—	(d)zĩ	(d)zu	—	(d)zẽ	(d)zo	—	—	—
ジャ	ジャ	ジ	—	ジュ	ジエ	—	ジョ	—	—	—
(d)z	(d)za	(d)zi	—	(d)zu	(d)ze	—	(d)zo	—	—	—
タ	タ	—	テイ°	トウ	—	テエ°	ト	—	—	—
t	ta	—	tĩ	tu	—	tẽ	to	—	—	—
ʔタ	ʔタ	—	ʔテイ°	ʔトウ	—	—	—	—	—	—
tʔ	tʔa	—	tʔĩ	tʔu	—	—	—	—	—	—
ダ	ダ	—	デイ°	ドウ	—	デエ°	ド	—	—	—
d	da	—	dĩ	du	—	dẽ	do	—	—	—
ツア	—	—	ツイ°	ツ	—	ツエ°	ツオ	—	—	—
tsʔ	—	—	tsʔĩ	tsʔu	—	tsʔẽ	tsʔo	—	—	—
チャ	チャ	チ	—	チュ	チェ	—	チヨ	—	—	—
te	tea	tei	—	teu	tee	—	teo	—	—	—
ʔチャ	ʔチャ	ʔチ	—	ʔチュ	—	—	—	—	—	—
teʔ	teʔa	teʔi	—	teʔu	—	—	—	—	—	—

ナ	ナ	ニ	ヌイ°	ヌ	ニエ	ネエ°	ノ	ニヤ	ニユ	ニヨ
n	na	ni	nĩ	nu	nje	ně	no	nja	nju	njo
ナ	ナ	ニ	—	—	—	—	—	—	ニユ	—
nʔ	nʔa	nʔi							nʔju	
ハ	ハ	ヒ	ヒイ°	フ	ヘ	ヘエ°	ホ	ヒヤ	ヒユ	ヒヨ
h	ha	hi	hĩ	hu	he	hě	ho	hja	hju	hjo
バ	バ	ビ	ブイ°	ブ	ベ	ブエ°	ボ	ビヤ	ビユ	ニヨ
b	ba	bi	bĩ	bu	be	bě	bo	bja	bju	bjo
パ	パ	ピ	ピイ°	プ	—	プエ°	ポ	ピヤ	ピユ	ピヨ
p	pa	pi	pĩ	pu	—	pě	po	pja	pju	pjo
パ	パ	ピ	—	プ	ペ	—	ポ	—	—	—
pʔ	pʔa	pʔi		pʔu	pʔe		pʔo			
マ	マ	ミ	ムイ°	ム	メ	メエ°	モ	ミヤ	ミユ	ミヨ
m	ma	mi	mĩ	mu	me	mě	mo	mja	mju	mjo
マ	マ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
mʔ	mʔa									
ヤ	ヤ	イ	—	ユ	イエ	—	ヨ	—	—	—
j	ja	jĩ		ju	je		jo			
ヤ	ヤ	—	—	ユ	イエ	—	ヨ	—	—	—
jʔ	jʔa			jʔu	jʔe		jʔo			
ラ	ラ	リ	ルイ°	ル	リエ	レエ°	ロ	リヤ	リュ	リヨ
r	ra	ri	rĩ	ru	rje	rě	ro	rja	rju	rjo
ワ	ワ	—	—	ウ	—	ウエ°	ヲ	—	—	—
w	wa			wu		wě	wo			
ワ	ワ	—	ウイ°	—	—	—	—	—	—	—
wʔ	wʔa									

佐仁方言の音声とカナ表記に関する注意点を以下に示す。

- 語頭の母音（ア行）の前には声門閉鎖音[ʔ]が現れる（例：アウ[ʔau]「雨」、イシヨ[ʔico]「漁」、ウシ[ʔuci]「牛」、オ[ʔo]「泡」）。
- 声門閉鎖音を伴わない、緩やかな声立ての母音は'イ、'ウと表記する（例：'インガ[(j)ingga]「男」'ウトウ[(w)utu]「夫」）。
- 母音i（イ段）、ĩ（イ°段）、u（ウ段）は、無声子音に挟まれる環境で無声化する（例：キチャ[kĩtea]「着た」、マキイ°サ[mʔakĩsa]「大きい」、クサ[kuša]「草」）。
- 中舌母音は添字「イ°」／「エ°」で表記する（スイ°[sĩ]「巢」、ムエン[měN]「燃える」）。

- k（カ行）及びp（パ行）は（音声的に有声の）母音に挟まれると摩擦音で現れることがある（例：ヤバラカ[jaɸaraxa]「柔らかい」）。
- 喉頭化音と呼ばれる、喉頭の緊張を伴う（あるいは、声門閉鎖音[ʔ]との二重調音となる）子音を持つモーラを表すカナには「ʔ」を付している（例：ʔクビ[kʔubi]「首」、ʔマ[mʔa]「ここ」）。
- kw（クア行）及びts（ツア行）は喉頭化子音のみ（例：クア[kwʔa]「子」、ツイナ[tsʔina]「綱」）であり、非喉頭化音と対立しないため、カナ表記に「ʔ」は付していない。
- 語根初頭以外で喉頭化音／非喉頭化音の対立があるのは「キ」「ク」のみである（例：イʔキ[ʔikʔi]「息」、イキ[ʔiki]「行け」、パʔク[pʔakʔu]「箱」、パクナ[pakuna]「吐くな」）。このため、語根初頭以外では、「キ」「ク」の場合のみ喉頭化音／非喉頭化音の書き分けを行い、その他は「ʔ」を付せずに表記している。
- （クア行及びツア行以外でも）語根初頭以外でかつ「キ」「ク」以外では、「ʔ」を付していなくても、先行母音が無声化する場合に音声上は喉頭化音で現れている場合がある（例：アタラシキヤ[ʔataraciʔkʔja]「もったいない」、ヌプカ[nuɸʔukʔa]「暖かい」）。
- 促音の直後では喉頭化音／非喉頭化音の対立がなく、音声的には喉頭化音で現れることがあるが、カナ表記に「ʔ」は付していない。

3 佐仁方言の形容詞資料

本稿で報告する形容詞の例文は、以下の調査票に基づくものである。

(1) 本事業の共通の調査票

- 形容詞語彙調査票
- 形容詞活用調査票（ただし「おいしい」の活用の部分のみ）

(2) 追加調査票

- 形容詞語彙調査票に基づく資料の中で、形容詞による形式の違いが見られた「～くて」、「～くない」、「～そうだ」について独自に作成した調査票

例文資料は、2021年2月に行った聞き取り調査で得たものである。話者は、佐仁集落出身・在住の安田重照氏（昭和13年生まれ・男性）、安田絹枝氏（昭和18年生まれ・女性）の2名である。複数の形式が得られた場合は {A/B/C} のように示している。随意的な部分は（ ）で囲んでいる。左から、例文番号、調査のターゲットとなっている形容詞、例文（上段：共通語・下段：佐仁方言）の順に示している。なお、下段の方言形は上段の共通語の文意を訳したものなので、必ずしも共通語形と一対一対応しているわけではない。

形容詞語彙調査票		
1	痛い	熱はないけど、頭が痛い。 ネエ°ツヤ ネエ°ンバ ハーチヌ ヤユン。
2	かゆい	蚊にくわれたところがかゆい。 ガジャンニ クアッタシ ドロヌ ヨゴカ。
3	けむたい	煙がたくさん出てけむたい。 ヒイ°ブシヌ ヤナカ イジティ° ヒイ°ブカ。
4	苦しい	なんだか胸が苦しい。 ヌガカロ ヌイ°ーヌ クツイ°ナカ。
5	くすぐったい	脇の下を触られると、くすぐったい。 ワ°キヌ シャ サドラリイ°バ パゴカ。
6	だるい	朝から体がだるい。 スイ°カマラガ ドウーヌ ダロカ。
7	眠い	昨夜夜更かしをして、今日は眠い。 ユビイ° (ヤ) ユワカシ シ フーヤ アゴカ。
8	ひもじい	朝から何も食べていないので、とてもひもじい。 スイ°カマラガ ヌヤシマ { カンカナ / カーズイ° / カディ° ネエ°ンカナ / カドゥランカナ } ユワカ。
9	まぶしい	雲が無くて、太陽がまぶしい。 °コーヌ ネエ°ンズイ° テイ°ダンヌ ピキヤロカ。
10	忙しい	近頃仕事が忙しい。 ホノゴロ シグトウヌ イショナカ。
11	すべっこい	油をこぼしたので、床がすべっこい。 アブラバ ウックシャットウ ユカヌ ナビルカ。
12	欲しい	食べ物よりもお金が欲しい。 カイムンニカ ズイ°ンガ プッシャ。
13	多い	この集落には元気な年寄が多い。 ウン ムラナンティ°ヤ ドウクサン ウッチュヌ ウーカ。
14	少ない	女より男が少ない。 °ウナグニカ °インガガ イ°キラカ。
15	珍しい	あれ、このバナナ、赤いよ。珍しいね。 アギイ° ウン バシャナリヤ アーカッカ。 { ムズイ°ラカンジャ / ムズイ°ラカヤ }。
16	浅い	フライパンは汁鍋より浅い。 フライ°パンヤ シルナブニカ アサカ。
17	深い	家族が多いから、深い汁鍋を使っている。 キイ°ンズ°クヌ ウーカンカナ プカカン シルナブバ スイ°カトウン。

18	新しい	買ったばかりだから、まだ新しい。
		ハウティ° ヤタ アンカナ ?ナーガルイ° ミーカ。
19	古い	おじいさんが建てた家はもう古い。
		フッシュガ タテェ°タン ヤーヤ ?ナ プルカ。
20	厚い	この板は重くて、厚い。
		ウン イタヤ ウブクティ° アチカ 。
21	厚みが薄い	もう少し薄い板を持ってきて。
		?ナンナリ プスイ°カン イタ ムシ?クー。
22	粗い	この網は目が粗い。小魚が逃げてしまう。
		ウン アンヤ ムヌ アラカ。 クァーユグァヤ ピングドー。
23	細かい	この篩（ふるい）は目が細かい。
		ウン プリヤ ムヌ オロカ。
24	美しい	花はどれも美しい。
		パナヤ { ヌークン / ドウルイ° アタンチ } キラカ。
25	汚い	泥がついて汚い。
		ミチャヌ ?クッカティ° { キサネェ°カ / ?イエシカ / ?イエッシャ }。
26	醜い	映画に出てくる化け物は、醜い顔をしている。
		クァツィ°ドーチ イジティ° キュン バケムンヤ { ヨーソワッサン / ヨーソワルカン } ツィ°ラ シュン。
27	大きい	冬瓜はかぼちゃより大きい。
		シブリヤ ツブルニカ ?マキィ°サ。
28	小さい	レタスはキャベツより小さい。
		レェ°タスヤ タマナニカ ギィ°ナカ。
29a	窮屈	一昨年買った上着は窮屈だ。
		ミチュナティ° ハウタン ウワギヤ クツィ°ナカ。
29b	窮屈	最近太ったから、この上着は窮屈だ。
		ホノゴロ クェ°タンカナ ウン ウワギヤ クツィ°ナカ。
30	広い	今住んでいる家は庭が広い。
		?ナー ?クラシュン ヤーヤ ヤンムヌ ピルカ。
31	狭い	以前は狭い家に住んでいた。
		マエヤ イバカン ヤーナンティ° ?クラシュタ。
32	高い	エベレスト山は富士山より高い。
		イエベレェ°ストザンヤ フジサンニカ ターカ。
33	低い	阿蘇山は富士山より低い。
		アソザンヤ フジサンニカ マルカ。

34	近い	役場までならとても近い。すぐ隣だ。
		ヤ?クバガルイ° { ナルイ°バ / アルイ°バ }
		ムル チキヤカ。 スグ { アズイ°ラジャ / ソトナリジャ }。
35	遠い	家から学校までは遠い。
		ヤーラガ ガッコーガルイ°ヤ トゥーカ。
36	強い	北の湖は貴乃花より強い。
		キタノウミヤ タカノハナニカ ?チューカ。
37	弱い	貴乃花は北の湖より弱い。
		タカノハナヤ キタノウミニカ ユワカ。
38	長い	家の竹竿は、太くて長い。
		ヤーヌ デェ°ゾーヤ ?マキイ°サ (ダカ) アティ° ナガカ。
39	短い	この鎌の柄は細くて短い。
		ウン ハーヌ 'イーヤ オロカ (ダカ) アティ° イッキヤカ。
40	のろい	次郎は仕事のがのろい。
		ジローヤ シグトゥヌ ヨデェ°カ。
41a	速い	太郎は走るのが速い。
		タローヤ パシリュンガ プェ°ーカ。
41b	早い	今日は早く起きた。
		フーヤ プェ°ーカ ウータ。
42a	遅い	次郎は歩くのが遅い。
		ジローヤ アッキュンヌ ヨデェ°カ。
42b	遅かった	寝るのが遅かった。
		ヌイ°ブリュンガ オソカ アタ。
43	太い	この縄は太い。
		ウン ツイ°ナヤ ?マキイ°サ。
44	細い	もう少し細い縄を持ってこい。
		?ナンナリ オロカン ツイ°ナ ムシ?クー。
45	緩い	君の帯の締め方は緩い。もったときつく締めろ。
		?ヤン オビヌ シューカタヤ ユルカ。
		?ナンナリ ?チューカ { シューティ°ニ / シュールイ° }。
46	若い	若いうちが花だ。若いときは二度と来ない。
		ワーカン ウチガ { パナドー / パナジャ }。ワーカン トゥ?キヤ ニドゥトゥ クンドー。

47	幼い	孫の太郎はまだ幼い。
		?マーガヌ タローヤ ?ナーガルイ° ギイ°ナカ。
48	荒い	今日は風も強くて、波も荒い。
		フーヤ ハズイ°ダカ ?チュークティ° ナンダカ アラカ。
49	明るい	満月の夜は明るい。
		マンゲツヌ ユルヤ アーガトゥン。
50	暗い	月のない夜は暗い。
		スイ°?キヌ ネェ°ン ユルヤ ?クラカ。
51	温かい	冷たい汁より温かい汁の方がおいしい。
		ピグルジルニカ { アスイ°カン / ヌプカン } シルガ ?マカ。
52	ぬるい	お湯が冷めてしまったから、ぬるい。
		ユーヌ サウティ° ヌルカ。
53	冷たい	井戸水はいつでも冷たい。
		{ ホーヌ ムズイ°ヤ / ホームズイ°ヤ } イツイ° アタンチ ピグルカ。
54	暖かい	太陽も出てきて今日は昨日より暖かい。
		ティ°ダンヌ イジティ°ッチ フーヤ ?キヌニカ ヌプカ。
55	暑い	今年の夏は去年の夏よりも暑い。
		フトウシヌ ナツイ°ヤ フズヌ ナツイ°ニカ アスイ°カ。
56	寒い	北風が吹いて、今日は朝から寒い。
		ニシヌ プチ フーヤ スイ°カマラガ ピグルカ。
57	涼しい	木の下影は涼しい。
		ヒイ°ーヌ シャーヌ ハギイ°ヤ スイ°ダカ。
58	熱い	作ったばかりのおつゆは熱い。
		シー ヤタヌ シルヤ ヤユン。
59	甘い	黒砂糖は、甘い。
		?クルザタヤ アーカ。
60a	辛い	唐辛子はとても辛い。
		コショヤ ムル パナパッチ。
60b	辛い	唐辛子を入れたら辛くなった。
		コショ イルイ°タットウ ユーマサリ パナパッチ。
61	おいしい	向こうの食堂は安くておいしい。
		アーヌ ショ°クドーヤ { ヤスイ°カダカ アルイ°バ / ヤスイ°カ アティ° } ?マカ。
62	渋い	熟していないバナナは渋いよ。
		ウドウラン バシャナリヤ シブカ。

63	しょっぱい	お父さんがつくる味噌汁はいつもしょっぱい。
		?チャンガ ス?クリュン ミスンシルヤ イツィ°ンクン シュガラカ。
64	味がうすい	塩が足りなくて薄味だ。
		マショヌ イ?キラカ アティ° アーカ。
65	味が濃い	出汁がよくきいて、味が濃い。
		ダシヌ ムール キチ アジヌ クイカ。
66	酸っぱい	梅干しも酸っぱいけどレモンも酸っぱい。
		ウメボシダカ スィ°ーカッカ レェ°モンダカ スィ°ーカ。
67	苦い	よく効く薬は苦い。
		キキュン クスリヤ ギャーカ。
68	まずい	父が作る味噌汁はまずい。
		?チャンガ ワーシュン ミスンシルヤ ?マ?ク ネェ°ン。
69	重い	鉄は木より重い。
		テェ°ツヤ ヒィ°ーニカ ウブカ。
69	重い	重い病気にかかった。
		コプェ°カン ビョー?キ ナタ。
70a	軽い	私は兄より 5 キロ軽い。
		ワンヤ アニニカ ゴ?キロ カルカ。
70b	軽い	二度目のお産は軽かった。
		ニドゥミヌ サンヤ ドウヤカ アタ。
71	太っている	あの子はお父さんに似て太っている。
		アン クァヤ 'インガヌ ウヤトゥ ニシ クェ°トゥリ。
72	痩せている	この子はお母さんに似て痩せている。
		ウン クァヤ 'ウナグヌ ウヤトゥ ニシ イェトゥリ。
73	固い	木も固いが、鉄はもっと固い。
		ヒィ°ーダカ フパカッカ テェ°ツヤ ?ナープン フパカ。
74	柔らかい	作りたての餅は柔らかい。
		スィ°チ ヤタヌ ムチャ ヤパラカ。
75	もろい	センダンの木は、もろいので床には使えない。
		{ シンダンヌ ヒィ°ヤ / シンダンギィ°ヤ } ブクギィ° アンカナ ユカッチヤ スィ°カワラン。
76	粘り強い	この木の枝は曲がっても折れない。とても粘り強い。
		ウン ヒィ°ヌ ユダヤ { マガティ°ヤ 'ウンバ 'ウルィ°ラン / マガティ°モ ウツチュルィ°ラン }。 ムール スィ°ズィ°ジューカ。
77	悪い	この洗濯機は壊れやすくて品質が悪い。
		ウン シェンタッキヤ { ヤブルィ°ヤカヌ / ヤブルィ°ヤクティ° } シナヌ ワルカ。

78	香ばしい	バラの花は、とても香ばしい。
		バラヌ パナヤ ムール ハバカ。
79	臭い	豚小屋の近くは臭い。
		?ワンセエ°ヌ チキヤカヤ クサカ。
80	けむたい	生木を燃やしたから、けむたい。
		ナーギイ° { モーシャットウ / ムエ°ーシャットウ } ヒイ°ブカ。
81	やかましい	車の音がやかましくておちつけない。
		?クルマヌ ウトゥヌ { ミンチャカヌ / ミンチャクティ° } イエスイ°カン。
82a	うるさい	ラジオの音がうるさくて声が聞こえない。
		ラジオヌ ウトゥヌ { コーティ°ナカヌ / コーティ°ナクティ° } ファヌ キキヤラン。
82b	うるさい	ハエがうるさい。
		パイヌ コーティ°ナカ。
83	かしましい	ハエがまとわりついて、かしましい。
		パイヌ ?クツカリスイ°キイ°ティ° ミンコーティ°ナカ。
84	荒い	うちのおじさんは怒りっぽくて気が荒い。
		ワキャン 'ウジャ { ?キョージブエ°カヌ / ?キョージブエ°クティ° } ヤナゲエ°ムン。
85	おとなしい	妹の花子は（静かで）おとなしい。
		ウトウトヌ ハナコヤ イエスイ°チュン。
85	おとなしい	メス牛はおとなしい。
		'ウナグウシヤ イエスイ°チュン。
86	賢い	あの子は頭もよくて、賢い。
		アン クァヤ ツイ°ブルダカ イッチャ アティ° ツルギドー。
87	詳しい	うちの祖母は機織りのことに詳しい。こんど聞いてみよう。
		{ ワキャン / ヤーヌ } アンマヤ { ノノウリヤ / ノノウリヌ クトゥヤ } クァショー（ジャ）。 コンド キチンニョ。
88	しつこい	何回ことわっても家にくる。しつこいひとだ。
		イ?クプリ コトワタンチ ヤーチ キュン。 クトゥムスイ°カカン ?チュジャ。
89	しぶとい	体は小さいが（粘り強くて）しぶとい。
		ドゥーヤ ギイ°ナカッカ シブカ。

90	すばしこい	すばしこい子は、追っかけっこでもなかなか捕まらない。
		ダグルカン クァーヤ ウースィ°キィ°クマ シャンチ アティ°ダン ミンギラン。
91	逞しい	太郎も成長して逞しい青年になった。
		タローダカ ポデェ°ティ° オーリョーゲェ°カン ネェ°ッセェ° ナタ。
92	鈍い	年寄りには、若い人より動くのが鈍い。
		ウッチュヤ ワーカン ?チュニカ { ドゲェ°ンヌ / ドゲェ°ンガ } ヨデェ°カ。
93	ひとなつっこい	この子はとてもひとなつっこい。
		ウン クァヤ ムール ?チューナスィ°カカ。
94	優しい	花子さんは誰にでも優しい。
		ハナコヤ { タルンクンニ / タルニ アタンチ } ?キョーギラカ。
95	危ない	崖の側は危ないから子どもは行かない方がいい。
		サ°クヌ { ブチャ / アズィ°ラヤ } アブネェ°カンカナ ワレェ°グァンキャヤ イキャンバ イッチャ。
96	おもしろい	このドラマはおもしろい。
		ウン ドラマヤ オーシルカ。
97	つまらない	このドラマはつまらない。
		ウン ドラマヤ オーシル°ク ネェ°ン。
98	かわいそう	(親猫に死なれた子猫をみて) かわいそうだ。
		?キョーシャキィ°サ。
99	不思議だ	(手品を見ながら) あんなところから水が出てくるなんて、不思議だ。
		アッシュン ドロラガ ムズィ°ヌ イジティ° キュンチバ オトナカ。
100	完全である	傷がひとつも無くて完全だ。
		{ ?キズィ°?ティ°ツイ° / ?キズィ°ヌ ?ティ°ツイ°モ } ネェ°ン (ティ°) ?ユン クトゥ (ヤ) ネェ°ン。
101	すばらしい	新しくできた役所は、すばらしい。
		ミーカ { デェ°ケェ°タン / デェ°キィ°タン } ヤクショヤ 'イーダッカジャ。
102	値段が高い	この店の品物はみんな高い。
		ウン ミシヤヌ シナムンヤ { スー / アンカリ } ターカ。
103	安い	地元の(自分たちの)魚はおいしくて安い。
		ドゥンキャヌ ?ユーヤ ?マカ アティ° ヤスィ°カ。

104	貧しい	お金がなくて貧乏だった。
		ズィンヌ ネェーズィ ヨーシャ アタ。
105	裕福だ	今は暮らしも楽で裕福だ。
		?ナーヤ ?クラシダカ ラ?ク ナティ° ブギンシャジャ。
106	偉い	この町で一番偉いのは、村長さんだ。
		フン マチナンティ° イチバン 'イーツチュヤ ソンチョージャ。
107	難しい	掛け算より割り算が難しい。
		カケザンニカ ワリザンガ ムスイ°カカ。
108	易しい	足し算は引き算よりやさしい。
		タシザンヤ ピ?キザンニカ ヤスイ°カ。
109	いい	仕事も終わったから、もう帰ってもいい。
		シグトゥダカ ウワタンカナ ?ナ モドティ° イッチャツカ。
110	もったいない	まだ使えるのに捨てるのはもったいない。
		?ナーガルイ° スイ°カワルイ°ンバ { スイ°ティ°ンミヤ / スイ°ティ°ンチバ } アタラシキヤ。
111	正しい	君の言っていることは正しい。
		?ヤーガ イシュンミヤ ギヌ カナトゥッカ。
112	悪い	先に手を出したお前が悪い。
		サ?キ ティ°ー イジャシャン ?ヤーガ ワルカ。
113	良い	世の中のために良いことをした。
		シキンヌ タウ 'イークトウ シヤ。
114	良い	うちの孫は学校の成績が良い。頭がいい。
		{ ワキャン / ヤーヌ } ?マーガヤ ガッコーヌ シェーシェ?キガ イッチャ。アタマガ イッチャ。
115	青い	松の葉は青い。
		マツイ°ヌ パーヤ オーカ。
116	赤い	デイゴの花は赤い。
		ディ°ンギイ°ヌ パナヤ アーカ。
117	黄色い	熟んだバナナは黄色い。
		ウダン バシャナリヤ ?キーカ。
118	白い	白米は玄米よりも白い。
		シラゲェ°タン フーヤ ゲンマイニカ シルカ。
119	黒い	カラスの羽は黒い。
		ガラスイ°ヌ パヌイ°ヤ ?クルカ。
120	丸い	満月は丸い。
		マンゲツヤ マルカ。

121	四角い	豆腐は四角い。（※枡のようにカクカクしている）
		トープヤ マスイ°ニシ カ?クカ?ク シュン。
122	平たい	この石は皿のように平たい。
		ウン イシヤ サラニシ ピラッタ シュン。
123	鋭い	包丁の先はとても鋭い。
		{ ポーチャヌ / ポーシャヌ } サ?キヤ ムール イライラ シュットー。
124	羨ましい	私は若い人が羨ましい。
		ワンヤ ワーカン { ?チュバ / ?チュガ } オナオカ（リ）。
125	恥ずかしがる	たくさんの人の前に出て恥ずかしがっている。
		ヤナカヌ ?チュヌ ムーチ イジティ° パスイ°カカ シュン。
126	嬉しがっている	小遣をもらってとても嬉しがっている。
		コズカイ 'イティ° ムール ポーラカ シュン。
127	喜んでいる	小遣をもらってとても喜んでいる。
		コズカイ 'イティ° ムール ユル?クドウン。
128	欲しがっている	赤ちゃんがオッパイを欲しがっている。
		アー?コガヌ ?チーバ プッシャ シュン。
129	嬉しそうに している	小遣をもらって、嬉しそうにしている。
		コズカイバ 'イティ° オーシルカ シュン。
130	食べやすい	柔らかく煮た豚足は、とても食べやすい。
		ヤパラカ ニシャン ?ワンパギヤ ムール カイヤカ。
131	食べにくい	この魚は骨が多くて、食べにくい。
		ウン ?ユーヤ ギヌ ウークティ° カングルカ。
132	嬉しそう	褒められて、とても嬉しそうだ。
		フーラッティ° ムール オーシルゲェ°カ。
133	おいしそう	今日のごちそうは、おいしそうだ。
		フーヌ カイムンヤ { ?マチャキィ°サ / ?マシャキィ°サ }。
134	暑そうだ	（晴れた空を見て）今日も暑そうだ。
		フーダカ アスイ°カゲェ°カ
135	男らしい	石原裕次郎は、とても男らしい。
		イシハラユージローヤ ムール 'インガラッシャ。
136	女らしい	吉永小百合は、誰よりも女らしい。
		ヨシナガサユリヤ タルニカ 'ウナグロカ。

形容詞活用調査票（1～39「おいしい」のみ）		
1	おいしい？	豚肉と山羊肉は、どっちがおいしいの？
		?ワートゥ ヤギ（トゥ）ヤ ドゥルイ°ガ ?マカリェー？
2	おいしい	山羊肉より豚肉がおいしい。
		ヤギニカ ?ワーガ ?マカ。
3	おいしい？	沖縄の豚肉はおいしいの？
		ナパヌ ?ワヤ ?マカンニヤ？
4	おいしくて	うん、おいしくて安いよ。
		ンー { ?マクティ° / ?マカ アティ° } ヤスイ°カットー。
5	おいしく ないの？	山羊汁って、おいしくないの？
		ヤギジルヤ ?マカ ネェ°ンナ？
6	おいしいけど	いや、おいしいけど、匂いが少しきつい。
		アイ ?マカンバ ニョーヌ ?ナーリ キツカ。
7	おいしいから	でもヨモギを入れたらおいしいから、食べてみて。
		アシュンバ プ（ツ）ツイ°（バ） イルイ°ルイ°バ ?マカンカナ カディ°ニ。
8	おいしい だろう？	ほら、おいしいだろう？
		ホレェ° ?マカロガ？
9	おいしくない けど	おいしくないけれど、体に良さそうだね。
		?マカヤ ネェ°ンバ カラダッチ イッチャシャキイ°サヤ。
10	おいしかった？	残さないで食べていたけど、おいしかったの？
		{ ノーサンニシ カダガ / ノーサングトゥ カディ° ヲッタガ } ?マカ アティ°ナ？
11	おいしかった から	うん、おいしかったから、全部食べたよ。
		ンー ?マカ アタンカナ アンカリ カダ。
12	おいしかった？	どれが一番おいしかった？
		ドゥルイ°ガ イチバン ?マカ アティ°？
13	おいしかった	魚の煮つけがおいしかった。
		?ユヌ ニスイ°キイ°ガ ?マカ アタ。
14	おいしい	（残さずに食べたのをみて）へえ、おいしかったんだ。
		アギイ°ー ?マカ アタンジャ。
15	おいしかった のに	あそこの食堂、昔はおいしかったのに、最近はおいしくない。
		アーン ショ°クドーヤ ムカシヤ ?マカ { アタンジャガ / アタンバ } ホノゴロヤ ?マ°ク ネェ°ン。
16	おいしかった	そうそう、おいしかった。
		アッシ アッシ ?マカ アタ。

17	おいしく ないの？	どのおかずがおいしくないの？
		{ ディン / ドウン } ハテムンガ マク ネン？
18	おいしくない	キャベツ炒めがおいしくない。
		タマナイリキガ マク ネン。
19	おいしいのに	(自分でたべてみて) こんなにおいしいのに、あの子は何故残 したのかなあ。
		アッシ (ガリィ) マカンバ アン クアヤ ヌガ { ノーシッコ / ノーシャンチョ }。
20	おいしく なかったの？	(残した料理を見て) 今日の夕ごはん、おいしくなかったの？
		{ ヨネヌ / フーヌ } ユーバンヤ マク { ネーズィ / ネンティナ }？
21	おいしかった けど	味噌汁はおいしかったけど、おかずがおいしくなかった。
		ミス (ン) シルヤ マカ アタンバ ハテムンガ マク ネンタ。
22	おいしく なかったから	おいしくなかったから、半分残した。
		マク { ネーズィ / ネンティ } パンブン ノーシャ。
23	おいしく なかったの？	どのおかずがおいしくなかったの？
		{ ディン / ドウン } ハテムンガ マク { ネーズィ / ネンズィ }？
24	おいしく なかった	ニンジンの炒め物がおいしくなかった。
		ニージンヌ イリキムンガ マク ネンタ。
25	おいしく なかったけど	ヤギ汁はおいしくなかったけど、大根の煮つけはおいしかった。
		ヤギジルヤ { マカ / マク } ネンタンバ ドコネヌ ニスイキィヤ マカ アタ。
26	おいしく ないから	おいしくないから、誰も食べないだろう。
		マク ネンカナ タルン カンダロ。
27	おいしく ないなら	もしおいしくないなら、食べなくてもいいよ。
		マク { ネンバ / ネン ナリィバ / ネン アルィバ } { カンタンチ / カンティ } イッチャットー。
28	おいしく ない～	おいしくないものでも、ラードを入れたらおいしくなるよ。
		{ マク / マカ } ネンムン アタンチ ワン アブラ イリィリィバ マカ ナリュットー。

29	おいしく なかった～	おいしくなかったヤギ汁が、ヨモギを入れたらおいしくなった。
		?マ?ク ネェ°ンタン ヤギジルヌ プ(ッ) ツィ°(バ) イルィ°タットゥ ?マカ ナタ。
30	おいしく なければ	おいしくなければ、誰も食べないだろう。
		?マ?ク ネェ°ンバ タル(ン) カンダロ。
31	おいしく ないのに	おいしくないのに全部食べるの?
		?マ?ク ネェ°ンバ アンカリ カユン?
32	おいしく なくても	うん、ひもじいから、おいしくなくても食べるよ。
		ンー ユワカンカナ ?マ?ク ネェ°ンタンチ カユットー。
33	おいしければ	もう少しおいしければ、もっと食べただろう。
		?ナンナリ ?マカ アルィ°バ(ヤ) ?ナブン カユタロ。
34	おいしく なかったのに	おいしくなかったのに、食べたの?
		?マ?ク(ヤ) ネェ°ンタンバ カディ°?
35	おいしかった	ううん、おいしかったよ。私は好きだよ。
		アイ ?マカ アタットー。 ワンヤ スィ°?キジャ。
36	おいしかったら	もし、おいしかったら、もっと食べたかもしれないよ。
		{ ムシン / モシ } ?マカ アタルィ°バ ?ナブン カユタンカモシルィ°ラン。
37	おいしくても	どんなにおいしくても、食べすぎは良くない。
		キャシ ?マカ アタンチ カイスィ°ギヤ イッチャ ネェ°ン。
38	おいしかった～	おばあさんの味噌汁がおいしかったことを思い出した。
		ホンマン ミスンシルガ ?マカ アタン クトゥ(バ) オーイジャチャ。
39	おいしい～	たまにはおいしい魚がたべたいな。
		トゥキナ ?マカン ?ユ(ガ) カイシャカ。

形容詞追加調査票		
1	重そうだ	この箱は、本がたくさん入っていて重そうだ。
		ウン パ?クヤ ホンヌ ヤナカ イッチュティ° ウブカゲェ°カ。
2	重そうだ	太郎は、荷物をたくさん持たされて重そうだ。
		タローヤ シナムン(バ) ヤナカ ムタサッティ° ウブカゲェ°カ。
3a	暖かそうだ	太郎は、厚着をしていて暖かそうだ。
		タローヤ アツィ°ギシ ヌブカゲェ°カ。
3b	暑そうだ	太郎は、厚着をしていて暑そうだ。
		タローヤ アツィ°ギシ アスィ°カゲェ°カ。

4	暖かそうだ	この上着は暖かそうだ。
		ウン ウワギヤ ヌプカゲェ°カ。
5	暑そうだ	(夏に) 外は日が照って暑そうだ。
		ストウヤ ティ°ダンヌ { ティ°ティ° / イジティ° } アスィ°カゲェ°カ。
6	涼しそうだ	(夏に) 木陰は涼しそうだ。
		ヒィ°ン ハギィ°ヤ スィ°ダカゲェ°カ。
7	寒そうだ	(冬に) 外は風が吹いて寒そうだ。
		ストウヤ ハズィ°ヌ スガティ° ピグルカゲェ°カ。
8	甘そうだ	このお菓子は砂糖がたくさんかかっていて甘そうだ。
		ウン クァシヤ サタヌ ヤナカ カーティ° アーカゲェ°カ。
9	渋そうだ	このバナナは、まだ熟れていなくて渋そうだ。
		ウン バシャナリヤ ?ナーガルィ° ウドゥラ (ン) ズィ° シブカゲェ°カ。
10a	面白そうだ	(題名を見て) この本は面白そうだ
		ウン ホンヤ オーシルゲェ°カ。
10b	難しそうだ	(題名を見て) この本は難しそそうだ。
		ウン ホンヤ ムスィ°カゲェ°カ。
11a	誇らしそうだ	太郎は賞状をもらって誇らしそうだ。
		タローヤ ショージョー 'イティ° ポーラカゲェ°カ。
11b	嬉しそうだ	太郎は賞状をもらって嬉しそうだ。
		タローヤ ショージョー 'イティ° オーシルゲェ°カ。
12	うらやまし そうだ	それを見た次郎はうらやましそうだ。
		ウルィ°バ ニシャン ジローヤ オナオカゲェ°カ。
13a	強そうだ	あの相撲取りは強そうだ。
		アン ショートウリヤヤ ?チューカゲェ°カ。
13b	弱そうだ	あの相撲取りは弱そうだ。
		アン ショートウリヤヤ ユワゲェ°カ。
14	柔らかそうだ	この餅はつきたてで柔らかそうだ。
		ウン ムチャ スィ°チ ヤタ アティ° ヤパラカゲェ°カ。
15	固そうだ	この餅は乾燥して固そうだ。
		ウン ムチャ ホラシ フパカゲェ°カ。
16a	新しそうだ	この家は新しそうだ。
		ウン ヤヤ ミーカゲェ°カ。
16b	古そうだ	この家は古そうだ。
		ウン ヤヤ プルカゲェ°カ。

17	良さそうだ	(服屋で) 太郎にはこれが良さそうだ。
		タローニヤ ウンガ イッチャゲェ°カ。
18	苦しそうだ	太郎は病気で苦しそうだ。
		タローヤ ビョー°キシ コペカゲェ°カ。
19	忙しそうだ	太郎は毎日忙しそうだ。
		タローヤ ピーガピン イショナカゲェ°カ。
20	元気そうだ	太郎は元気そうだ。
		タローヤ ドックサゲェ°カ。
21	大きそうだ	今度の台風は大きそうだ
		コンドヌ テェ°プヤ °マキィ°サゲェ°カ。
22	おいしくて	あの食堂は、料理がおいしくて、いつも賑わっている。
		アン ショ°クドーヤ ジューリヌ °マカ アティ° イツィ°ンクン °チューヤ ヤナカジャガ。
23	強くない	今日は風がそれほど強くない。
		フーヤ ハズィ°ヌ アシガルィ° °チューカ ネェ°ン。
24	重くない	この荷物はそれほど重くない。
		ウン シナムンヤ アッシガルィ° { ウブカ / ウブ°ク } ネェ°ン。
25	寒くない	今日はあまり寒くない。
		フーヤ アッシガルィ° { ピグルカ / ピグル°ク } ネェ°ン。
26	寒くて	昨日は寒くて、あられが降った。
		°キヌヤ { ピグルクティ° / ピグルカヌ } アラレェ°ヌ プタ。
27	難しくない	この本はそれほど難しくない。
		ウン ホンヤ アシガルィ° { ムスィ°カカ / ムスィ°カ°ク } ネェ°ン。
28	難しくて	この本は難しく、読んでも意味が分からない。
		ウン ホンヤ { ムスィ°カカ アティ°/ ムスィ°カクティ° } ユダンチ シェデェ°ヌ ワカラン。
29	珍しくない	この品物はそれほど珍しくない。
		ウン シナムンヤ アッシガルィ° ムズィ°ラカ (ヤ) ネェ°ン。
30	珍しくて	この品物は珍しくて、なかなか手に入らない
		ウン シナムンヤ ムズィ°ラクティ° アティ°ダン { ティ°ッチ / ティ°ニ } イラン。
31	良くない	今日はあまり天気が良くない。
		フーヤ アッシガルィ° °ワースィ°°キヌ イッチャ ネェ°ン。

32	良くて	今日は天気が良くて、暖かい。
		フーヤ ?ワースィ°?キヌ イッチャヌ ヌプカ。
33	大きくない	うちの車はあまり大きくない。
		{ ワキヤヌ / ヤヌ } ?クルマヤ アシガルイ° ?マキィ°サ ネェ°ン。
34	大きくて	隣の車は大きくて、人がたくさん乗れそうだ。
		アズィ°ラヌ ?クルマヤ マキィ°サヌ ?チュヌ ヤナカ ヌラルイ°シャキィ°サ。
35	元気でない	太郎はあまり元気でない。
		タローヤ アッシガルイ° ドウクサ ネェ°ン。
36	元気で	次郎は元気で、毎日畑に行っている。
		ジローヤ ドウクサ アティ° { ビーガピン / ジョーテェ°ン } パテェ°チ イジューリ。
37	惜しくない	捨ててもそれほど惜しくない。
		スイ°ティ°タンチ アッシガルイ° アタラシキヤ ネェ°ン。
38	惜しくて	惜しくて捨てられない。
		アタラシキヤヌ スィ°ティ°ララン。
39	欲しくない	酒はあまり欲しくない。
		セェ°ーヤ アッシガルイ° プッシャ ネェ°ン。
40	欲しくて	あの子はおもちゃが欲しくて泣いている。
		アン クァヤ オモチャ プッシャ シ ナシュッカ。

4 佐仁方言の談話資料

本稿で報告する談話は、文化庁委託事業「平成28年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」の予備調査において2017年2月11日に収録し、2021年2月に書き起こしの確認調査を行なったものである。収録場所は話者の自宅（鹿児島県奄美市笠利町佐仁）で、収録時間は約9分間である。話者Aは安田重照氏（昭和13年生まれ・男性）、話者Bは安田絹枝氏（昭和18年生まれ・女性）で、臨席者は本稿の筆者2名である。資料の提示の体裁については、左側から例文番号、話者記号（A/B）、カナ表記、共通語訳の順に示している。聞き取りができない部分は（...）で表している。また、佐仁方言としてより自然な言い方があると話者が判断した場合は（=○○）の形で示している。なお、「アン（あの）」「ウン（その）」「ナ（もう）」などがフィラー（間つなぎ語）として使われている場合には、共通語訳には反映していない。

談話の話題は以下のとおりである。

- 話題の概要：「話者の子どもの頃の生活」
- より細かな話題（対応する例文番号）
 - 子どもの仕事（1～18）
 - ソテツの実のお粥（19～38）
 - サツマイモの朝掘り（39～49）
 - 火の点け方（50～92）
 - 履物（93～139）
 - 弁当（140～172）
 - 服（173～199）
 - 風呂（200～258）

1	A	ワキャガ ?ナ ムン オブエ°テエ°ケエ°タン ドウ?キヤ	私たちが物を覚え始めた（物心ついた）ときは
2	A	シェンソーヌ アト ヤタ アティ° ショ?クリョーチバ ネエ°ン	戦争の直後で食料はない
3	A	ショーガッコー ナルイ°バヤ ?ナ サン ヨネエ°ンラガ クァーモリ	小学校になるともう三、四年から子守り
4	A	ウトウトウジャ イモトヌ クァーモリ	弟やら妹の子守り
5	A	?ウナグヌ ?チュヤ クァーモリ	女の人の子守り
6	A	?インガヤ アン ウシヌ クサ	男は牛の草...
7	A	ウシバ スッチ ウシニ クサ カーシャーリ	牛を引いて牛に草を食べさせたり
8	B	スビ?キ クサナ	スビキクサ（牛を引いて草を食べさせること）？
9	A	スビ?キ クサ	スビキクサ
10	A	アン ウシヌ ツィ°ナヤ	牛の綱は

11	A	タズィ°ナ ミンジ	手綱を掴んで
12	A	クサ ?キリ?キラン ドゥ?キワ (=ドゥ?キヤ)	草を切ることができないときは
13	A	ミチヌ	道の...
14	A	?チュヌ サ?クモツバ カーサンニシ	人の作物を食べさせないように
15	A	ミチヌ	道の...
16	B	ブチグダリ	側の辺り？
17	A	ンー	うん
18	A	アン ミチヌ クサ カーシャーリ シ	道の草を食べさせたりして
19	A	アッスィ°ルィ°バ	そうしたら
20	A	アン シュショ°クヤ ナリガエ アタンカナ	主食はナリ（ソテツの実）のお粥だったから
21	A	?ウナグヌ ?チュンキャ ナリワリ	女の人たちはナリワリ（ソテツの実の製粉）
22	A	ウンバ	それを
23	A	ナリ ワリッチュンクトゥヤ	「ナリワリ」ということは
24	A	シェイフン シュン クトウバ ワリッチドゥ ?ユンカナヤー	製粉することを「ワリ」と言うからね
25	A	アルィ°バ	あれを
26	A	ナンゴーカ ナリバ ワティ°	何合かソテツの実を製粉して
27	A	ウンガ	それが...
28	B	ナリヤ ムズィ°チ プ?クラサンバヤ アルィ° スィ°ラランダログ	ソテツの実の水に浸さないといふあれ（製粉）できないでしょ？
29	A	ウンミヤ ?ナ ド?クヌケ シャン アト アルィ° シュンカナ	それはもう（水に浸して）毒抜きしたあととあれするから
30	B	?チャー	そう
31	A	アッスィ°ルィ°バヤ ?ウナグヌ クァヤ	そうしたら女の子は
32	A	?チュニ ユティ°ヤ チューガッコー ナルィ°バ クァーモリヤ シーガッチャナ	人によっては中学校になると子守をしながら
33	B	ナリガエ タキ	ソテツの実のお粥炊き？
34	A	アン ナリガエ アン	ソテツの実のお粥
35	A	ナリバ シュージ	ソテツの実を砕いて
36	A	アシシ	そして...
37	B	?キンブリトゥ プティ°	目の細かい金属の篩にかけて？
38	A	コナ ナシ	粉にして
39	A	アシシ ?ウナグヌ ?チュヤ	そして女の方は

40	A	アサボリチシ アサゴハンマエ	アサボリ（サツマイモを朝掘ること）と言って朝ごはん前
41	B	スイ°カマ	朝
42	B	スイ°カマ	朝...
43	A	トンバ スイ°カマ プェ°ーカ	サツマイモを朝早く
44	B	ネェ°サリ スイ°ラン ウチダログ	朝ごはんを食べないうちでしょ？
45	A	パテェ° イジ	畑行つて
46	A	アサゴハン シュン タウ	朝ごはんをするため
47	A	ウルイ°バ ショ°クジ シ	それ（朝掘ったサツマイモ）を食事にして
48	A	ガッコーチ クァンキャバ ヤラシタガナッチドー	学校へ子どもたちをやっていたよ
49	B	スイ°カマ プェ°ーカ ウーティ° シタガナッチドー	朝早く起きてしていたよ
50	A	ムェ°ーシムンチバダカ	焚き物も
51	A	°ナーニシ ガスダカ ネェ°ンバ	今みたいにガスもなければ
52	A	ヤー イジ ヒイ° ピラティ°ッチ	山に行つて木を拾つてきて
53	A	ウンガ	それが...
54	A	ウンシ ムンシ ウン	それで炊事をして
55	A	°ナーヌ クァンキャ °ナ ヒイ°ブカッチンキャ ワカランダッカヤー	今の子供たちは煙たいのなんて分からないだろうね
56	B	°マツイ° テェ°ツケェ°ンミヤ アン アルイ°	火を点けるのはあれ？
57	B	ウン ユダグァヤ ヌッチガ °ユル	小枝は何ていうんだっけ？
58	A	ユダッチバ	枝って？
59	B	ユダ	枝...
60	B	°マツイ° テェ°ツケェ°ン ドウ°キ マツイ°ギイ°ン パージャ	火を点けるとき松の木の葉っぱやら
61	B	アルイ°ッチ °ウズル	あれって「ウズル（小枝）」
62	A	°ウズル	ウズル
63	B	°ウズルグァ ウシカラガ ダイシュン ヒイ°ヤ ウシ °マツイ° テェ°ツケェ°スイ°タログ	ウズルを置いてから大きな木を置いて火を点けていたでしょ
64	A	°マツイ° イシャガ アルイ°ジャヤー	火と言えばあれだね
65	A	°ナーニシ マッチッチュンダカ アンバリ ネェ°ン	今みたいにマッチというものもあまりない
66	A	ウン °マツイ° オコシュン ドウ°キヤ	火を起こすときは

67	A	ユル スィ°カタン ?マツィ°バ	夜使った火を
68	A	ナーシャガルィ°	翌日まで...
69	B	パイグアトウ ウサティ°	灰で埋めて？
70	A	ナーシャガルィ° ウシキユンタウニ パイシ ウサディ°	翌日まで置いておくために灰で埋めて
71	B	ウサティ°	埋めて
72	A	アッスィ°ルィ°バ	そうすれば
73	A	アン プカ アン	他...
74	A	ウルィ°バ ?マツィ°バ (= ?マツィ°ヌ) ネェ°ンチュンキャ	それを火がない人は
75	A	?マツィ°グア ?クルィ°ティ° ?クルィ°ルィ°ツチシ ウンバ ウェ°ーティ°	「火をください」と言ってそれを分けて
76	A	ウンバ ムトウ ナシ ?マツィ° オコシャリ シャガ	それを元にして火を起こしたりしたけれど
77	B	?マツィ° テェ°ツケェ°ン	火を点ける...
78	A	?ナーヌ クァンキャ アッシュンヌンキャ ワカラランダッカヤー	今の子供たちはそんなのなんかは分からないよね
79	B	ヒィ°ブカダカ ワカラン アラン	煙たさも分からないんじゃない？
80	A	アシシ	そして
81	A	アッサルィ°バ アン プックシ	そうしたら火吹き竹
82	B	ヒィ°ブシヌ イジルィ°バ	煙が出たら？
83	A	プックシシ プープー ?クー°キ ウクティ°	火吹き竹でフーフー空気を送って
84	A	?マツィ° ムェ°ーシ ウンシ ムンシ	火を燃やしてそれで炊事して
85	A	マタ アウプリンキャ ナルィ°バヤ	また雨降りなんかになると
86	A	ウン ムェ°ーシムンガ	その焚きものが
87	B	シタルィ°バヤ	濡れるとね
88	A	シタティ° ナカナカ ムェ°ーラズィ°	濡れてなかなか燃えなくて
89	A	チコ°ク	遅刻...
90	A	ムン カンバ ユワカ アリ	ご飯を食べなければ空腹で
91	A	カディ°キバ チコ°ク スィ°ロスィ°ロシ	食べていくと遅刻しそうになって
92	A	?ナ ナコナコシヤ ガッコーチ イキイキ シタンジャガ	もう泣きそうになって学校に通っていたんだよ
93	A	アン ?クイムンチバ ネェ°ン ハラパギナティ°	履物はなく裸足で
94	B	?チャー	そう
95	B	ハラパギナティ°	裸足で

96	A	ワキャガ	私たちが
97	B	チューガッコーガリィ°ヤ ハラパギナティ° イキュタガナッチドー	中学校までは裸足で行っていたよ
98	A	イン ロッキロバリ ヨン°キロバリ °ナ アン ガッコーチ	うん 六キロぐらい四キロぐらい学校へ
99	A	クツッチバ ネェ°ン ハラパギナティ°	靴はなく裸足で
100	A	アシシ	そして...
101	B	プユヌ アラレェ°ヌ ウティ°ン ドウ°キドウ	冬のあられが降るときが
102	B	パギヌ ピグルカティ° アルィ° アタ	足が冷たくてあれだった
103	A	ガッコーチバ	学校は
104	B	ピグルカ アタ	寒かった
105	A	ナーバリ	中だけ...
106	A	ガッコー	学校
107	A	パリヤ タテェ°ティ° タダ ウーバリ プ チ	柱を立ててただ上だけ（萱を）葺いて
108	B	シャヤ	下は...
109	A	マドダカ ネェ°ン	窓もない
110	B	シャヤ アルィ°ナ	下はあれ？
111	B	スイ°ナジ	砂地？
112	A	シャヤ スイ°ナジ	下は砂地
113	A	ヨコラガ アムィ°ハズィ° ウシ°クーディ°	横から雨風が入り込んで
114	A	アウヌ プルィ°バヤ	雨が降ると
115	A	ツ°クエジャ ヌージャッチ シタルィ°バ	机やら何やらって濡れると
116	A	アラン ドロッチ	そうでないところに
117	A	アウヌ プラン ドロッチ ユタリ キャシャーリ シ	雨の降らないところに寄ったり何とかしたりして
118	B	スイ°ナトウ パギグアンキャ ウサユタン アラン	砂で足なんか埋めていたんじゃない？
119	A	パギシ ウサディ°	足で埋めて
120	A	ワキャガ チューガッコーヌ ドウ°キヤ	私たちが中学校のときは
121	A	ナゼェ°ガリィ° °ナー イバ イエソ°ク ジャガ リョコーチシ アッチ	名瀬まで今言えば遠足だけれど旅行と言って歩いて
122	A	ウン ドウ°キ クツヌ ネェ°ンバ イキャンチシ シャンバ	そのとき靴がないといけな って言ってそうした（靴を買 った）けれど

123	A	ウン サイズヌ ワカラズィ° ウン ドウ?キヤ ナンモン ナンモンチ	サイズが分からなくてその時 は何文何文って
124	B	ナンモンチ ワカラズィ°	何文か分からなかった?
125	A	ナンモン ナンモンチ ワカラズィ°	何文何文って分からなくて
126	A	ドーソーナンティ° ?チューリ ?ターリ クツンキャ ?クドウルィ°バ	同級生で一人二人靴なんか履 いていて
127	A	アルィ°ガ ウン (...) アン プバーリ アンカナ ワン パギヤッチ ヒカ?ク シ	「あれが あのくらいだから私 の足は」って比較して
128	A	(...) ナンモンチチャットウ アワズィ°	何文と言ったら (サイズが) 合わなくて
129	A	トチュー イジ	途中まで行って
130	A	イチ?キロバリ アッチャットウ	1 キロほど歩いたら
131	A	ナゼェ°ガルィ°ヤ ヨンジッキロ アリン ジャガ	名瀬までは 40 キロあった頃だ けれど
132	A	イチ?キロ アッチャットウ	1 キロ歩いたら
133	A	クツズレェ° シ アトヤ ウンバ	靴ずれしてあとはそれを
134	B	クツヌ マウヌ イジティ°	靴のまめができたの?
135	A	マウヌイジティ° ウンバ ハタウティ° イジ	まめができてそれ (靴) を担 いで行って
136	A	ナゼェ°チ イジ	名瀬に行って
137	A	ウンガ	それが
138	A	ミームンバ ムッチュンガ ジマンチ シタン ジダイジャガ	新しいのを持っているのが自 慢だっけしていた時代だよ
139	B	ハラパギシ アルィ° ジャガナ	裸足であれだよ
140	A	アン ドウ?キチバ ?ナーニシ キューショ?クダカ ネェ°ン	あの時は今みたいに給食もな い
141	B	?チャー	そう
142	A	ベントー ムッチ イキバ	弁当を持っていくと
143	A	サカミチ パシリバヤ ガッタガッタ ユスイ°ラッティ°	坂道を走るとガタガタ揺られ て
144	A	ベントーヌ サンプンノイチバリ ナリエン ドウ?キ	弁当が三分の一だけになった とき
145	B	ハタブチッチ ユティ°	片方の端に寄って?
146	A	ハタブチッチ ユティ°	片方の端に寄って
147	A	ウン ?イエーティ° カユン ドウ?キヤ	それを開けて食べるときは
148	A	ウンヌ ?ティ°ツイ° アルィ°バヤーッチ オーイオーイ シタ	その一つ分 (弁当箱一杯) あればなあと思ったものだ
149	A	オカズッチバヤ	おかずは

150	A	スイ°キィ°ムングアヌ アルィ°バ シェイジェイ °イーオカズアティ°	漬物があればせいぜい良いお かずで...
151	B	スイ°キィ°ムンヌ アルィ°バ ジョートー ダッカ	漬物があれば上等でしょ？
152	A	ミスグアンキャ ムッチヤ	味噌なんか持って
153	A	アッシ ?ナ アン ドウ?キヤ	そしてもうあのときは
154	A	ゴハンヌンキャヌ カーリィ°バヤ ムル ユル?クドウタガナッチドー	ご飯なんかが食べられたらと ても喜んでいたよ
155	B	ベントーッチ ゴハンヌ ムタルィ°バ アルィ°ジャガナ	弁当にご飯を持てれば あれ じゃない
156	A	アン アルィ°ドー	あれだよ
157	B	イッチャッカナ	いい方よ
158	B	トン ムッチダカ シャン アラン	サツマイモを持ったりもした んじゃない？
159	B	トンダカ ムッチ イジャン アラン	サツマイモも持っていったん じゃない？
160	A	アン ワキャ ショーヤ アンバリ トンヤ ネェ°ンタンカナ	私たちの集落はあまりサツマ イモはなかったから
161	A	アン ガイマイヌ	外米の
162	B	トーパ?ク	「トウパク」？
163	A	ツーショー ?ユン トーパ?クグーシ ゴハン タシ	通称言う「トウパク」米でご 飯を炊いて
164	A	アッシャンバ	そうすると
165	A	アン ユージャ ブルンキャ パテェ°ヌ ヤナカ アティ° トンヌ アタンカナ	用（集落名）やら辺留（集落 名）なんかは畑がたくさんあ ってサツマイモがあったから
166	A	トン	サツマイモ
167	A	?ナー アスイ°タ トンバリ	もう彼らはサツマイモばかり
168	A	アッシェンカナ ショーックアヌ ゴハン ムシキューンチシ	だから佐仁の子どもがご飯を 持ってくるって
169	A	ムル	とても
170	B	オナオカ シャロ	うらやましがったでしょ？
171	A	ムル オナオカ シタガナッチ	とても うらやましがっていた よ
172	A	?ナ (...)	もう
173	A	プ?クッチバ ?ナーニシ シェイプ?クンキャヌ アンニヤッチ	服は今みたいに制服なんか があるもんか
174	B	?チャー	そう
175	B	ムカシヤ エッチビー アラン	昔はHB じゃない？

176	B	アメリカヌ	アメリカの
177	A	アメリカヌ ハライサゲヌ	アメリカの払い下げの
178	B	ハライサゲヌ エッチビー	払い下げの HB
179	A	?ナーニシ アルイ°ダカ	今みたいにあれも... (服もたくさん着ずに)
180	A	ヒトエヌ アーシュングァ キチ ピグルカ	一重のあんなの (粗末なもの) を着て寒い
181	B	ハダシャツッチバ ネェ°ンバヤー	肌シャツはなくてね
182	A	アン ドウ?キヌ クァヤ ?チューカ アタンジャ	あのときの子ども強かったんだ
183	B	ピグルカ アタンチ ウン イチマイシカ ?キラントロガッチドー	寒くても その一枚しか着なかったでしょ?
184	B	ズボンッチバ ハンズボン アラン	ズボンは半ズボンじゃない?
185	A	ハンズボン キチ	半ズボンを履いて
186	A	ワキャ ソツギョーシャシン ニバヤ	私たちの卒業写真を見ると
187	A	ショーガッコン ドウ?キヌ ソツギョーシャシン ニバヤ	小学校のときの卒業写真を見ると
188	A	ショーガッコー アンカナ シェイプ?クンキャ ネェ°ズイ°	小学校だから制服なんかなくて
189	A	タウダウ バンドッチバ ツイ°ナシ シューン クァダカ 'ウルイ°バ	それぞれにベルトは縄で締める子もいて
190	B	ツイ°ナガルイ°	縄まで?
191	A	'イーロシ バンドガルイ° シューン クァダカ 'ウティ°	紐でベルトも締める子もいて
192	B	ツイ°ナ?キビナ	縄の紐?
193	A	ツイ°ナ?キビシ バンド	縄の紐でベルト
194	A	ウワギヌ ボタンチバ ?キルイ°ティ° イジ	上着のボタンは切れていって
195	A	イスイ°ツイ° ボタン ウチナンティ° ?ターツイ° ミーツイ°バリ アン	五つボタンのうちで二つ三つだけある
196	A	ウンヌ アン ソツギョーシャシン ?キョーサクイ°サ	これがある (そんな様子が残っている) 卒業写真はかわいそうだ
197	B	ダイタン シュン クァヤ アルイ°ジャガナ	やんちゃな子はあれじゃない?
198	B	ハタバランキャ ヤブルイ°トウンバドウ キチュタガナ	脇腹なんか破れているのを着ていたよね
199	B	セエ°ーレエ°トウンバ	裂けているのを

200	A	アッシ スィ°ルィ°バ アルィ°ジャヤー	そうするとあれだね
201	A	ポロダカ アン ’ウリヤ アン ゴエモンブロ アティ°ヤー	風呂もあの頃は五右衛門風呂 だったね
202	B	ストゥブロ	外風呂
203	A	ストゥナンティ° ヤーダカ ネェ°ン	外で小屋もない
204	B	?チャー	そう
205	A	タダ ポロバ ウシ	ただ風呂を置いて
206	A	アッシ アン ムズィ° ?クイマイ アタンカナ	そして水を汲まないといけな かったから
207	A	アン イドヌ ブチヌ ?マーナンティ° アルィ° シ	井戸のそばのそこであれして
208	B	ホーヌ ブチダログ	ホー（井戸）のそばでしょ
209	A	ホーヌ ブチナンティ° シ	ホーのそばでして
210	A	アッシ ’ウナグヌ ?チュンキャ アルィ° シュン ドゥ°キヤ	そして 女の人たちはあれ（入 浴）するときは
211	A	?チュニ ニヤーランニシ	人に見えないように
212	B	ヤド タテェ°ティ°	戸を立てて
213	A	ヤド タテェ°ティ°ドゥ ポロ イリュタン ジダイジャガ	戸を立てて風呂に入っていた 時代だよ
214	A	?ナーヌ クエンキャニ アッシ イシャンチャ アルィ°ダロヤー	今の子どもたちにそう言った ってあれだろうね
215	B	ワカラランダロヤー	分からないだろうね
216	A	ワカラランダロヤー	分からないだろうね
217	B	プユヌ ピグルカン ドゥ°キダカ アルィ°ジャガヤー	冬の寒いときもあれだよ
218	B	ストゥヌ ポロドゥ イリュタガヤー	外の風呂に入っていたよね
219	A	ウン ポロジャガ マタ ウン	その風呂だけれど...
220	B	ダークンナンティ° ポロダカ ネェ°ンタン アランナッチドー	風呂もどこにでもあるわけじ ゃなかったんじゃない？
221	A	?チャー	そう
222	A	アッシ アンカナ ポロヌ アン ドゥ°キヤ アン	だから風呂があるときは...
223	B	イラシ ?クルィ°ルィ°ツチシ	「入らせてください」って言 って
224	A	ポロヌ アンチュンカナ イラシ ?クルィ°ルィ°ツチシ	「風呂があるそうだから入ら せてください」って言って

225	A	マタ ポロ タシャンカナ イリガ クーチ	また（風呂を炊いた人は） 「風呂を炊いたから入りに来 なさい」って
226	A	?チューキョデンキャバ	親戚を
227	B	アブティ°	呼んで？
228	A	デェ°ンワダカ ネェ°ンバ ワザワザ アブティ° ポロンキャ イラシタガ	電話もなくてわざわざ（直 接）呼んで風呂なんか入らせ ていたけれど
229	A	アン ?チューキョデェ°ンキャヌ キョー デェ°ンクァンキャヌ ヤーチ アスイ°ビ ガ クバ	親戚の子が家に遊びに来ると
230	A	?マンティ° ?ウタン ウヤツチュンキャヤ	そこにいた親たちは
231	A	?ヤキャ ヌーカディ° ?ヤキャ ヌーカディ°	「お前たちは何食べた？」 「お前たちは何食べた？」
232	A	ムンヤ カディ°ナーツチシ	「ご飯たべた？」って言って
233	A	マンブ?ク ナタツケェ°イジャッチ ウン シワ シュンキャドウ	「満腹になったかな？」って 心配することなんか
234	A	?ナー オーウバ ウヤツチュッキャ ?ナ シワ シタン アラン	今思えば親たちは心配してい たんじゃない？
235	B	ムン	食べもの...
236	B	タウダウ ムンヤ アッシ カーランタンダッカッチドー	それぞれに食べ物はどう（満 足に）食べられなかったでし よ
237	A	アン ?ウリヤ マタ シゴトツチバ	あのときはまた仕事は
238	A	チョード アルイ°ジャヤー	ちょーど あれだね
239	A	?ナー?ウリ ナルイ°バヤ	今頃になると
240	A	ターヌ ヒリョー ナリユンチシ	田の肥料になると言って
241	A	セェ°テェ°ツイ°グアヌ パー	ソテツの葉っぱ
242	A	ターチ ?クディ°	田んぼに踏み込んで
243	A	アング マタ	あれがまた
244	A	セェ°テェ°ツイ°ヌ アルイ°シ	ソテツのあれ（棘）で
245	B	ギニ スイ°カッティ°	（ソテツの）棘が刺さって？
246	A	スイ°カッティ°	刺さって
247	A	ウン ポロ イリユン トウ?キヌ ヤダン クトウヤー	風呂に入るときの痛かったこ と
248	A	アッシェンカナ	だから
249	A	クツダカ ネェ°ンカナ	靴もないから
250	A	ポロダカ ピーガピンヤ タキ?キラン	風呂も毎日炊けない
251	A	ムル	とても...

252	A	パギッチバ ワルイ°ティ° ポロ イリユン ドウ?キヌ ヤダン クトゥヤー	足は割れて風呂に入るときの 痛かったこと
253	B	ウニンヤ ジェンブ アッシ シタンダッカ	そのころはみんなそうしてい たでしょ?
254	A	?ナーヌ クァンキャ	今の子どもたちは...
255	B	アッシンキャ スィ°ラシャンギリ アルイ°ドー	そんな風にさせたってあれだ よ
256	B	タル シュン ?チュ ?ウランドー	誰もする人はいないよ
257	A	ナキュンカムヤー	泣くかもね
258	B	?チャー ナキヨ	うん泣くよ

参考文献

- 上野善道（1996）「奄美大島佐仁方言のアクセント調査報告—名詞の部」『琉球の方言』20: 26-57.
- 上野善道（1997）「奄美大島佐仁方言のアクセント調査報告—用言の部」『琉球の方言』21: 1-42.
- 狩俣繁久（2021）「琉球諸語の発音と書き表し方（暫定版）」沖縄言語研究センター定例研究会（2021年1月9日）発表資料.
- 狩俣繁久（2003）『奄美大島笠利町佐仁方言の音声と語彙』大阪学院大学情報学部.
- 重野裕美（2014）「北琉球奄美大島佐仁方言の敬語形式」『広島経済大学論集』36(4): 75-85.
- 重野裕美・白田理人（2018）「北琉球奄美大島笠利佐仁方言の尊敬動詞について」『琉球の方言』42: 25-59.
- 白田理人（2018）「鹿児島県奄美大島佐仁方言」『文化庁委託事業報告書 平成29年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』pp. 177-180.
- 白田理人・重野裕美（2019）「奄美大島笠利町佐仁方言の動詞・形容詞の活用」『文化庁事業報告書 平成30年度 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』pp.1-33.

徳之島伊仙方言の形容詞と助詞

加藤幹治（東京外国語大学大学院・日本学術振興会特別研究員）

1 はじめに

本稿は、奄美群島の一つである徳之島の南部、伊仙町検福集落で話される方言を対象とし、形容詞（形容詞の定義については後述）および助詞の資料を提示する。加えて、形容詞と助詞の概要について簡単に解説を付す。本稿で提供するデータは、全て筆者自身の調査によるものであり、伊仙町検福出身のRS氏を情報提供者とし、2020年から2021年にかけて郵便および電話によって調査を行った。RS氏にはこの場を借りて感謝を申し上げる。ただし、データ・解釈などに誤りがあった場合、その責任は全て筆者に帰する。調査は以下のように行った；本報告書に共通の調査票の例文の内、徳之島の文化的文脈に馴染まないと思われる語彙・表現を置き換え、RS氏へ送付した。調査票には日本語の例文が記入されており、RS氏にはその例文を伊仙方言へ翻訳していただき、かな書きで転写¹したうえで筆者へ郵送していただいた。筆者はかな書きで転写された徳之島方言の例文を音韻的に解釈し、音韻的表記へ置換した。その際語形や語彙が同定できなかったものは、RS氏に電話で尋ねて教えて頂いた。また、本稿では新しい試みとして、狩俣繁久氏の考案したカナ表記による例文も併載した。本稿末に付録として音韻表記⇔カナ表記の音節対応表を掲載する。

2 沖縄県鹿児島県大島郡、徳之島および伊仙町の概要

徳之島は、奄美大島から南西約25kmに位置する縦長の島であり、海岸延長は89.2kmである。面積は248.02 km²、南北約25km、東西約12kmに渡る。人口は23,947人である²。

伊仙町は、徳之島の南部に位置し、中でも検福集落は伊仙町の東南部に位置する。面積は62.7 km²、人口は6362人、世帯数は2885戸である。

3 徳之島方言の概要

徳之島方言は系統的に日琉語族・琉球語族・北琉球語群・奄美語に属する（cf. 上村1997、Pellard2015、中本1984）。管見の限り、奄美語内部での他方言との系統的関係に関しては定説がない。伊仙方言の徳之島方言内における類型論的位置づけに言及した

¹ 狩俣氏に基づくカナ表記とは異なり、RS氏の内省による転写である。

² 面積、人口、海岸延長の情報は鹿児島県 徳之島の概要

http://www.pref.kagoshima.jp/ac07/pr/shima/gaiyo/tokunoshima/tokunoshima_top.html（最終閲覧日：2021年2月13日）に基づく。

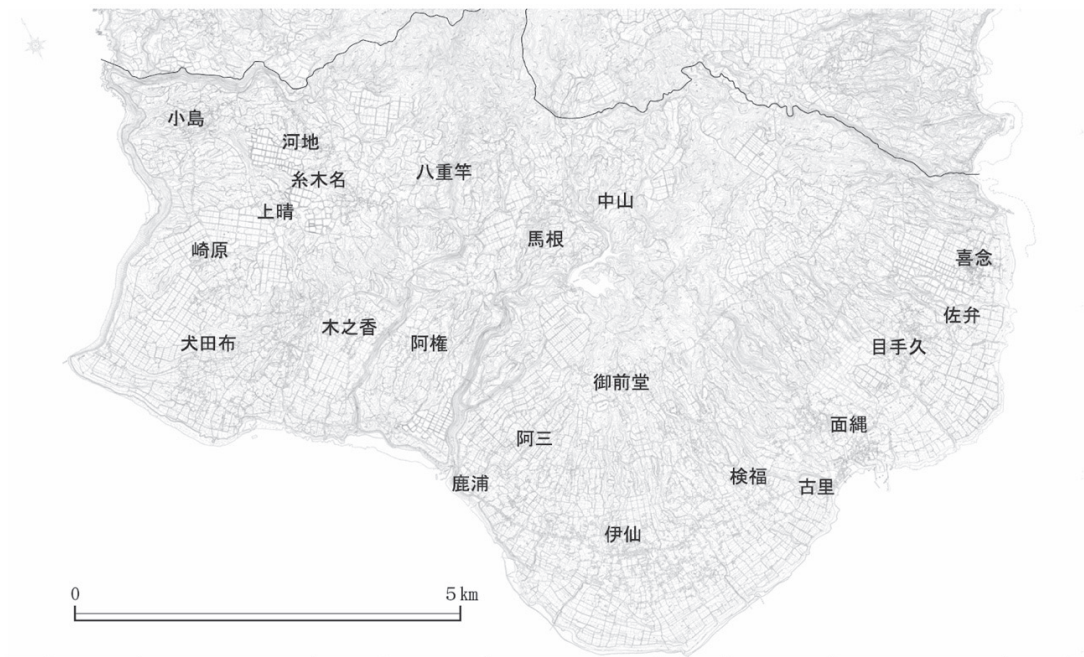


図 1. 伊仙町の集落の位置（伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会（編）(2015) p.13,

図 16「集落の位置」)

研究には、北西・東・南の3群のうち南群に属するとするもの（崎村 1983）と、北・南の2群のうち南群に属するとするもの（平山 1966）がある。ただし、島内での系統的位置づけに言及した研究は管見の限り存在しない。

伊仙方言に関する先行研究を年代順に列挙する。平山（1966）は分節音韻論・語アクセント・代名詞・動詞屈折の基礎的記述を行っている。崎村（1981）は語彙集・談話資料・語アクセント・動詞屈折の記述を行っている。Kato (2019) は音韻論・形態論・統語論・語彙集・談話資料の記述を行っている。加藤（2020）は音韻論・形態論・統語論の記述を行っている。また、琉球諸語に関する総説の一部で伊仙方言が触れられているものとして、仲宗根（1961）と山田（1984）が挙げられる。

伊仙方言は a, i, u, e, o, i, ε の7つの母音を持つ。子音は p, t, c, s, k, h, b, d, z, g, m, n, j, r, w, tʔ, kʔ, nʔ, mʔ, jʔ, wʔ の21個である。/t/は無声歯茎破裂音、/c/は無声歯茎破擦音、/tj/は無声歯茎硬口蓋破擦音の系列である。名詞アクセントは3型である。動詞アクセントは高起/低起の2型である。音節構造は単純で、CGVCが最大の形である。ただし、音節末に現れる子音は促音、撥音のみである。

4 形容語根と形容詞の概要

4.1 分類

伊仙方言には、典型的に物の性質・色・状態などの意味を持つ拘束形態素である形容語根が存在する。形容語根は、様々の形態操作を経て、文中で以下のような4種類の語として成立する：名詞との複合によって複合名詞に、派生によって用言のサブクラスである形容詞に、派生によって名詞修飾を行う *ka* 形に、派生によって動詞修飾や両肢述語の構成要素となる *ku* 形になる。(1)に複合名詞、(2)に形容詞の例を示す。

(1) *kuru+zata*

黒+砂糖

「黒砂糖」

複合名詞は通常の名詞と同じように、格助詞を取る、動詞の項となる、単独で述部を形成する、などの特徴を持つ。

(2) *kuru -har -n*

黒 自動詞化 連体

「黒い」

形容詞は、各種屈折接辞を取ることで様々な統語機能を持つ。

また、形容語根に *-ka* を接続し、もっぱら名詞修飾の機能を果たすような語形を *ka* 形と呼称する。

(3) *taka-ka jan* 「高い山」

ka 形は、動詞と異なる専用の接辞を取り、統語機能が名詞修飾に限られているという点で、動詞とは別の品詞に属すると考えられる。しかし以下に示すように、名詞の典型的な特徴である、①述部を形成する、②格助詞が接続する、③動詞の項になること、これらのうちいずれも満たさいため、名詞とも認めがたい。

(4) **kun jan=ja taka-ka*

「(意図した意味)この山は高い」

(5) **maa-ka=ga t'an*

「(意図した意味)うまいのがいい」

このように、*ka* 形は主要な品詞である動詞・名詞の典型的な特徴を満たさない。

また、形容語根から派生するもう一つの形式には *-ku* が続く形 (以降 *ku* 形)がある。

(6) *taa-ku nen* 「高くない」

(7) *ugasingan hwee-ku basu tjaa=jaa*

こんなにも 早-く バス 来た=念押し

「こんなにも早くバスが来たの」

(8) *?kin au-ku sumiri*

着物 青く 染める

「(意図した意味)着物を青く染める」

(9) *kin au-mir-i*

着物 青-他動詞化-連用

「着物を青める(青に染める)」

(10) *kin au-ku sjun*

着物 青-く する

「着物を青くする(青に染める)」

ku 形は(6)のように **-ku nen** という両肢構造で形容詞の否定の補充形として機能する。また、(7)に示したように、動詞修飾語として機能する。一方で、**-ku** 形が常に動詞修飾を行えるわけではない。(8)に示したように、動詞が軽動詞でない場合、**-ku** 形による修飾構造は容認度が下がることがある(琉球諸語における **-ku** 形とある種の動詞の共起制限は占部 2020 によって指摘されている)。この場合(9)のように他動詞的な形容詞を用いるか、(10)のように軽動詞 **sjun** によって両肢構造を作る方が容認されやすい。

ku 形は、動詞と異なる接辞を取り、単独で述部を形成しない点で、動詞とは別の品詞に属すると考えられる。また、名詞の典型的な特徴である、①述部を形成する、②格助詞が接続する、③動詞の項になる、いずれも満たさないため、名詞とも認めがたい。

単独で述部を形成しない、名詞修飾を行えない、動詞の項にならない、格助詞を取らないという点で名詞とも動詞とも違う品詞であると考えられる。

以上で見てきたように、伊仙方言において形容語根から成る語類として(複合)名詞、形容詞、ka 形、ku 形の4つを挙げられるが、いずれも異なる統語機能を持つ。ka 形と ku 形はどの品詞に属するかという問題が残るが、ただ一つの派生形式からなる品詞を認めるべきか現時点では筆者は判断する十分な材料を持っておらず、ひとまず形式名をそのままラベリングした呼称を行い、具体的な分類については保留する。

4.2 内部構造

伊仙方言の形容詞は、形態論の観点から、拘束形態素である形容語根(後述)に動詞化の派生接辞と選択的な派生接辞、そして義務的な屈折接辞が接続した語と定義される。(11)に形容詞の内部構造を図示し、(12)に具体的な語形を示す。

(1)形容語根-動詞化接辞-派生接辞-屈折接辞

(11) naga -mir -ar -i
語根 派生 派生 屈折
長い 他動詞化 受動 連用

(12) naga -har -i
語根 自動詞化 屈折
長い 自動詞化 連用

形容詞の取る屈折接辞は、動詞の取る屈折接辞と共通する。動詞と同じ屈折をするという点で、形容詞は動詞と対をなすような、用言のサブクラスであるとみなせる。

一方で、形容詞は否定の方略が動詞と異なる。動詞は、(13,14)に示すように否定の派生接辞 **-a** ないし **-adata** を取るのに対し、形容詞は(15,16)に示すように形容語根 **-ku nen** という両肢述語構造で否定を表す。その際、ムードやテンスは否定動詞 **nen / neeran** の派生・屈折として表される。

(13) koowan 食べない

(14) koowadatan 食べなかった

(15) aaku nen 赤くない

(16) aaku needan 赤くなかった

いくつかの形容詞は、用言に後続して両肢述語構造をなし、述部を構成する。

jasari ~やすい kooi jasari 「食べやすい」
 tjaari ~したい kooi tjaari 「食べたい」
 zjoori ~上手だ katari zjoori 「教え上手だ」
 geeri/tjugeeri ~ようだ jutatjugeeri 「良さそうだ」
 gusjari ~にくい kooi gusjari 「食べづらい」

4.3 idiosyncratic な音交替

平山(1966)によれば伊仙方言の自動詞的形容詞を派生する -har という形態素は、琉球語学でいう「サアリ」、すなわち、形容詞語根から名詞を派生する -sa と存在動詞 -ar の連用形に由来するという。つまり、歴史的変化のある段階では、-har は *-sar であったと考えられる。一方で、現代伊仙方言における -har は、前接する母音によって表 1 に示すような idiosyncratic な音韻変化を見せる傾向にある。この音韻変化は選択的なものであって、常に起こるわけではない。

表 1. har の交替形

前に来る母音	har が交替する形	実際の語形
a	ar	aari
i	sjar	iisjari
u	war	auwari
e	ar	hweeari
o	war	toowari
i	jar	hwiihari

5 徳之島方言の助詞・格配列

本稿では、伊仙方言の格助詞、特に主要項である主格と主要項に近い斜格項である与格について扱う。

伊仙方言は有標主格型言語である。すなわち、(取り立て助詞や焦点助詞のつかない限り)自動詞文の必須項(以下 S)、他動詞文の動作主 (以下 A)が同じ形態的標示 (すなわち主格) を受け、他動詞文の被動者 (以下 P)は常に形態的に無標示で現れる。

(17) turi=nu tuduri

鳥=主格 飛んでいる

「鳥が飛んでいる」 (自動詞文)

(18) maju=nu nizimi kadan

猫=主格 ネズミ 噛んだ

「猫がネズミを噛んだ」

(17, 18)に示すように、S と A は=nu で標示され、P には形態的標示がない。すなわち、SA/P の有標主格型の格配列である。

一方で、いわゆる存現文においては S/A が無標示で現れることがある。

(19) ane basu tjan=da

あ バス 来た=よ

「あ、バス来たよ」

伊仙方言には、複数の与格的形式、nin、nen、n が存在する (伊仙方言において i は i と混同されることがあり、nin は資料では nin という形式で出ていることもある)。表 2 に、各形式がどのような機能で用いられるかを示す。

表 2. 与格の機能分布

	存在	時間	経験者	所有者	方向	行為の相手	受益者	物の受取手	受動の行為者
nin		○	○	○	○	○	○	○	○
nen						○	○	○	○
n	○	○							

6 参考文献

- 平山輝男 (1966) 『琉球方言の総合的研究』 明治 書院.
- 伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会 (編) (2015) 『伊仙町の文化遺産: 伊仙町における奄美遺産悉皆調査報告書』
- Kato, Kanji (2019) A sketch grammar of the Isen dialect of Tokunoshima, Amami. Master's thesis, Tokyo University of Foreign Studies Graduate School.
- 加藤幹治 (2020) 「徳之島伊仙方言文法概説」 『言語・地域文化研究』, 26: pp. 211–227. 東京外国語大学.
- 中本正智 (1984) 「南島方言の概説」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一(編) 『講座方言学 10 沖縄・奄美地方の方言』, pp. 1–79. 国書刊行会.
- 仲宗根政善 (1961) 「琉球方言概説」 東条操(編) 『方言学講座 4』, pp. 20–43. 東京出版.
- Pellard, Thomas (2015) The linguistic archaeology of the Ryukyu islands. In: Heinrich, 崎村弘文 (1981) 「徳之島の方言 1 伊仙町目手 久方言の実態」 『鹿児島大学文科報告第 1 分 冊哲学・倫理学・心理学・国文学・漢文学篇』, 17: pp. 1–19.
- 崎村弘文 (1983) 「徳之島の方言 3 徳之島町亀津方言の実態」 『鹿児島大学文科報告第 1 分 冊哲学・倫理学・心理学・国文学・漢文学篇』, 19: pp. 1–17.
- 津波古敏子 (2009) 「鹿児島県大島郡伊仙町方言の動詞の実態」 『琉球語諸方言の動詞形容詞の形態論に関する調査研究』、科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書、pp. 195–291.
- 上村幸雄 (1997) 「琉球列島の言語 0) 総説」 亀井孝・河野六郎・千野栄一(編) 『日本列島の言語』, pp. 311–354. 三省堂.
- 山田実 (1984) 「奄美諸島(属島)の方言」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一(編) 『講座方言学 10 沖縄・奄美地方の方言』, pp. 151–167. 国書刊行会.

付録 音節表

	a	i	u	e	o	i	ε
ア	ア	イ	ウ	エ	オ	イ°	
	a	i	u	e	o	i	
カ	カ	キ	ク	ケ	コ	キイ°	ケエ
	ka	ki	ku	ke	ko	ki	ke
クア	クア			クエ			
	kwa			kwe			
ガ	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	ギイ°	ゲエ
	ga	gi	gu	ge	go	gi	ge
サ	サ	シ	ス	セ	ソ	スイ	セエ
	sa	si	su	se	so	si	se
ザ	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	ズイ	ゼエ
	za	zi	zu	ze	zo	zi	ze
タ	タ	ティ	トゥ	テ	ト	ティ°	テエ
	ta	ti	tu	te	to	ti	te
ダ	ダ	ディ	ドゥ	デ	ド	ディ°	デエ
	da	di	du	de	do	di	de
ツア			ツ			ツイ	
			cu			ci	
ナ	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ヌイ	ヌエ
	na	ni	nu	ne	no	ni	ne
ハ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ヒイ°	ヘエ
	ha	hi	hu	he	ho	hi	he
ファ	ファ	フィ		フエ		フィ°	
	hwa	hwi		hwe		hwi	
バ	バ	ビ	ブ	ベ	ボ	ブイ	ブエ
	ba	bi	bu	be	bi	bi	be
パ	パ	ピ	プ	ペ	ポ	プイ	プエ
	pa	pi	pu	pe	po	pi	pe
マ	マ	ミ	ム	メ	モ	ムイ	ムエ
	ma	mi	mu	me	mo	mi	me
ヤ	ヤ	イ	ユ	イエ	ヨ		
	ja	ji	ju	je	jo		
ラ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ルイ	レエ
	ra	ri	ru	re	ro	ri	re
ワ	ワ		ウ			ウイ	ウエ
	wa		wu			wi	we
	a	i	u	e	o	i	
キャ	キャ		キュ		キョ		
	kja		kju		kjo		
グア	グア			グエ			
	gwa			gwe			
ギャ	ギャ		ギユ		ギョ		
	gja		gju		gjo		
シャ	シャ		シュ		ショ		
	sja		sju		sjo		
ジャ	ジャ		ジュ		ジョ		
	zja		zju		zjo		
チャ	チャ		チュ		チョ		
	tja		tju		tjo		
ニャ	ニャ		ニユ		ニョ		
	nja		nju		njo		
ヒャ	ヒャ		ヒユ		ヒョ		
	hja		hju		hjo		
ブア	ブア	ブイ		ブエ		ブイ°	
	bwa	bwi		bwe		bwi	
ビャ	ビャ		ビユ		ビョ		
	bja		bju		bjo		
ピャ	ピャ		ピユ		ピョ		
	pja		pju		pjo		
ミャ	ミャ		ミユ		ミョ		
	mja		mju		mjo		
リャ	リャ		リュ		リョ		
	rja		rju		rjo		

【その他】 声門化音:ʔ、撥音:ン、促音:ッ、長音:ー

あきらかに伝統的な方言形でないと思われる機能語は<>でくくった。

1	豚肉と山羊肉は、どっちがおいしいの？	?ワーシトゥ ヤギシシヤ ダーガ マーハンガヤ
2	豚肉こそ おいしい。	?ワーシドゥ マーハリ
3	沖縄の豚肉はおいしいの？	ナーワノ ?ワーシワ マーハンセ
4	うん、おいしくて安いよ。	ウグァシ マーハティ ヤッサンダ
5	山羊汁って、おいしくないの？	ヤーギジルヤ マーク ネンヤ
6	そう、おいしいけど、においが少し強い。	ウグァシ マーハスイガ カザガ ?ヤンゴン チューハリ
7	でもヨモギを入れたら美味しいから、食べてみて。	ウグァシ ヤスイガ フツィ イルィティカ マーハン ムンナティ コーティ ネー
8	ね、おいしいだろう？	ヤ マーハサヤ
9	おいしくないけれど、体には良さそう	マーク ネンスィガ カラダナンヤ ユタチュゲーリ
10	残さないで食べていたけど、おいしかったの？	ノーサンゴー コートゥスイガ マーハティヤ
11	そう、おいしかったから、全部食べたよ。	ウグァシ マーハタトゥ ムール コーティ
12	どれが一番おいしかった？	ディ° ンガ イツィバン マーハタンガ
13	魚を煮たものがおいしかった。	?ユーノ ニガ マーハティ
14	(残さずに食べたのをみて) へえ、おいしかったんだ。	(ノーサンゴ コータ ムン ニーチ) エーマーハタヤ
15	あそこの食堂、昔はおいしかったのに、最近はおいしくない。	アマヌ ミシヤ ムートゥヤ マーハタンムン ?ヤン ブェン ヤ マーク ネン
16	そうそう、おいしかった。	ウグァシ ウグァシ マーハティ
17	どのおかずがおいしくないの？	ディ° ン カティムンガ マーク ネンガ
18	野菜炒めがおいしくない。	ヤッセーワーシガ マーク ネン
19	(自分でたべてみて) こんなにおいしいのに、あの子は何故残したのかなあ。	(ドゥーシ コーチ ニチ) カッシ マーハン ムン アン クァヤ ヌーナティ ノーチャンガヤー
20	(残した料理を見て) 今日の夕ごはん、おいしくなかったの？	(ノーチャン オカズ ニーチ) ヨーニノウバン マーク ネーダティヤ

21	味噌汁はおいしかったけど、おかずがおいしくなかった。	ミシュジルヤ マーハタスイガ カティムンガ マーク ネーダティ
22	美味しくなかったから、半分ぐらい残した。	マーク ネーダタトゥ ナーラブエン ノーチ
23	どのおかずがおいしくなかったの？	ディ° ン カティムンガ マーク ネーダタンヤ
24	ニンジンの炒め物がおいしくなかった。	ニンジンヌ ワーシムンガ マーク ネーダティ
25	ヤギ汁はおいしくなかったけど、大根の煮つけはおいしかった。	ヤーギジルヤ マーク ネーダタスイガ デクヌィ ワーシヤ マーハティ
26	おいしくないから、誰もたべないだろう。	マーク ネン ムンナティ° ダルマ コーワン ハズィ
27	もしおいしくないなら、食べなくてもいいよ。	ヤタシ マーク ネーダティカ コーワダティ ?タンダー
28	おいしくないものでも油を入れたらおいしくなるよ。	マーク ネン ムンマ アンバ イルイティカ マーク ナリュン
29	おいしくなかったヤギ汁がヨモギを入れたら美味しくなった。	マーク ネーダタン ヤーギジルガ フツイイルイタトゥ マーク ナーティ
30	美味しくなければ、誰も食べないだろう。	マーク ネーダティカ ダルマ コーワン ハズィ
31	おいしくないのに全部食べるの？	マーク ネンムン ムール コーイヤ
32	うん、ひもじいから、おいしくなくても食べるよ。	ウグァシ ヨーシャン ムンナティ° マーク ネーダティマ コーイヨ
33	もう少しおいしければ、もっと食べただろう。	?ヤーヌイングァ マーハティカ ?ヤーヌインマ コータン ジャロー
34	おいしくなかったのに、食べたの？	マーク ネーダタムン コーティヤ
35	ううん、おいしかったよ。私は好きだよ。	アラン マーハタンダ ワンヤ マーハンチオモユンダ
36	もし おいしかったら、もっと食べたかもしれないよ。	ヤタシ マーハティカ テーゲー コータン カマ シランヤ
37	どんなにおいしくても、食べすぎは良くない。	イキー マーハティマ コーイクァーヤ ’イタク ネン
38	おばあさんが作った味噌汁がおいしかったことを思い出した。	ハンシャルィガ ツクタン シルグァヌ マーハタンクトゥ ウブィジャチ
39	たまにはおいしい魚がたべたいな。	トゥキナンヤ マーカ ?ユグァ コーイチャサヤ
40	昨日と今日とどっちがひもじいの？	キーヌトゥ キュートゥ イツイガ ヨーシヤンガヤ

41	今日の方がひもじい。	キュードウ ヨーシャリ
42	おまえもひもじいの？	ウラマ ヨーシャリヤ
43	うん、ひもじくて死にそうだよ。	ウグァシ ヨーシャン シヌゲンダー
44	おまえは、ひもじくないの？	ウラヤ ヨーシャク ネンヤ
45	そう、ひもじいけど、まだ、ひもじくない。(まだ我慢できる)	ウグァシ ヨーシャスイガ ?ヤードゥ ヨーシャクネン
46	ひもじく、飢えているから、何でも食べられる。	ヨーシャン ツィズィカラン ムンナティ° ヌー ヤティマ コーリュリ
47	おまえも、ひもじいだろう？	ウラマ ヨーシャンアレー
48	ひもじくないけれど、少しなら食べられるよ。	ヨーシャクヤ ネンスイガ ?ヤングァ ヤティカ コーラリュリ
49	残さないで食べていたけど、そんなにひもじかったの？	キラゴン コータスイガ ウグァシガン ヨーシャティヤ
50	そう、ひもじかったから、全部食べたよ。	ウグァシ ヨーシャタトゥ ムール コータンダ
51	どれくらいひもじかったの？	イキサンプエン ヨーシャタンガ
52	皿までたべつくしてしまいそうなくらいひもじかった。	サランテー クァーティ カミチャンシコ ヨーシャティ
53	(鍋のご飯がなくなっているのを見て) ほんとうに、ひもじかったんだ。	(ナーブィヌ ウバンガ ネンゴン ナートゥムン ニーチ) フント ヨーシャタンダー
54	そういえば、あのとき、ひもじかったねえ。	ウグァシチカ アン ドウキン ヨーシャティヤ
55	あんあにひもじかったのに、今は腹いっぱいだ。	アガシンガン ヨーシャタン ムン ?ヤーワタ ミツチュリ
56	ごはん、食べてないでしょう？何故ひもじくないの？	ウバン コーティ ネンガヤ ヌーナティ ヨーシャク ネンガ
57	じつは、さっきお菓子を食べたからひもじくない。	フントヤ ?ヤーサキ クァシ コータトゥ ヨーシャク ネン
58	ひもじいのに、腹をこわして何も食べられない。	ヨーシャンムン ワタ ヤミ シー ヌーマ コーワラン
59	(箸をつけていないのを見て) ひもじくなかったの？	ミヤーシ ツィキィ° トウラン ムンナティ° ヨーシャク ネーダティヤ
60	ひもじかったけど、お腹が痛かったの。	ヨーシャタスイガ ワタガ ヤミュタトゥ

61	ひもじくなかったの？	ヨーシャク ネーダティヤ
62	さっきお菓子を食べたからひもじくなかった。	?ナー サキ クァシ コータトゥ ヨーシャク ネン
63	ひもじくなかったから、はんぶん残した。	
64	ひもじくはなかったけど、おいしそうだったから食べた。	ヨーシャクヤ ネーダタスイガ マーサゲータトゥ コータンダー
65	ひもじくないから、今は食べなくてもいい。	ヨーシャク ネンムンナティ° ?ヤー コーワダティマ ?ターリ
66	もしひもじくないなら、食べなくてもいいよ。	ヤタシ ヨーシャク ネーダティカ コーワタティ ?タンダー
67	ひもじくない時でも食べた方がいいよ。	ヨーシャク ネーダティマ コーティカドゥ ユタンダー
68	ひもじくなければ、誰も食べないだろう。	ヨーシャク ネーダティカ タルマ コーワサレ
69	ひもじくないのに、食べるの？	ヨーシャク ネンムン コーイヤ
70	うん、ひもじくなくてもおいしそうだから食べるよ。	ウグァシ ヨーシャティマ マーチャゲンムンナティ° コータンハズィ
71	もう少しひもじければ、もっと食べただろう。	j_?アーヌイングァ ヨーシャティカ ?ヤーヌイングァ コータンハズィ
72	ひもじくなかったのに、食べたの？	ヨーシャク ネンムン コーティヤ
73	ううん、ひもじかったよ。	ウグァシ ヨーシャタトゥヨ
74	もし ひもじかったら、これ食べていいよ。	ヤタシ ヨーシャティカ クルイ コーティ ?タンダ
75	どんなにひもじくても、腐ったのだけは食べるな。	イキヤー ヨーシャティマ クサタン ムンドゥ コーウナヨ
76	昔ひもじかった時のことを思い出した。	ムカシ ヨーシャタン トウキヌ クトゥウムジャチ
77	ひもじいときは何を食べてもおいしい。	ヨーシャン トウキヤ ヌー コーティママーリ
78	とてもひもじくて、仕事ができなかった。	シッタイ ヨーシャティ シグトゥガ サーラダティ
79	唐辛子はとても辛い。	クシュヤ シッタイ カラーリ
80	唐辛子は辛いから、食べたくない。	クシュヤ カラムンナティ° コーイチャークネン

81	唐辛子は辛くても、おいしいから、好きだ。	クシュヤ カラーティマ マームンナティ° スキダ
82	唐辛子を入れすぎて、からかった。	クシュ イルイクァッシー カラーティ
83	今日の おかずは あまり からくない。	キューヌ カティムンヤ アマイ カラク ネン
84	唐辛子を入れても辛くなかった。	クシュ イルイティマ カラク ネン
85	唐辛子を入れたら、辛くて 食べられない。	クシュ イルイタートゥ カラーティ コーワラン
86	こんなに からいのに 食べるの？	カシーマ カラムン コーイヤ
87	あそこの食堂の おかずは 昔は もっと辛かった。	
88	ああ、辛い！	アー カラーリ
89	唐辛子を入れたら辛くなった。	クシュ イルイタートゥ カラク ナーティ
90	いつでも おみやげは うれしい。	イツィマ ミヤゲヤ ホーラリ
91	ひさしぶりに 孫に 会えて うれしい。	ムドゥヤームン マーガニ オータトゥ ホーライ
92	昨日は 孫に 会えて うれしかった。	キーヌヤ マーガニ オーワタトゥ ホーラティ
93	ああ、うれしいなあ。	アー ホーラリ
94	うれしい知らせが とどいた。	
95	太郎の車は黒い。	タローヌ クルマヤ クルワリ
96	(太郎の買った車を初めてみて) へえ 太郎の 車って くらかったんだ。	へー タローヌ クルマチ クルワティヤ
97	(太郎の車の色を思い出して) そうそう、太郎の車は 黒かった。	ウグァシ ウグァシ タローヌ クルマヤ クルハティ
98	うわあ。黒い！	ウワー クルワリ
99	おとうさんの 髪は 黒い。	アジャヌ カミノケヤ クルワリ
100	わかいころは おじいさんの 髪も くらかった。	ワーハン ドウキヤ フッシュヌ キィ° マクルハティ
101	黒い 車が 止まっている。	クルハン クルマガ トゥマトゥリ
102	おじいさんとおばあさんはどっちが年上だったの？	フjユトゥ ハンシャルイヤ ダーガ トゥシ カサ ヤタンガ

103	おじいさんよりおばあさんが5歳年上だった。	フッシュユカ ハンシャルイガ イツイツ イ トウシ ウイ° ヤタンブエー
104	(おばあさんの年齢を聞いて) へえ、おばあさんが年上だったんだ。	ウグァシカ ハンシャルイガ トウシ ウ イ° ヤレー
105	おばあさんが年上だったことは、家の者だけが知っていたはず。	ハンシャルイガ トウシカサ ヤタン クト ウヤ ヤン ニージドゥ シチュタン ハズ イ
106	おばあさんは年上だったのに、おじいさんにやさしかったよ。	ハンシャルイヤ トウシカサ ヤタムン フ ッシュヌイヤ カナハーティ
107	おばあさんは年上なのに、威張らなかった。	ハンシャルイヤ トウシカサ ヤスイガ イ バラダティ
108	おばあさんは、相手が年上でも年下でも区別しなかった。	ハンシャルイヤ チューガ トウシウイ° ヤティマ トウシシャー ヤティマ チュー ワーサダティ
109	おじいさんは年上じゃなかったのに、おばあさんは敬っていた(敬語を使っていた)の？	フッシュヤ トウシウイ° ヤ アナダタス イガ ハンシャルイヤ ウヤマトウタワ
110	うん、年上じゃなくても、おじいさんには丁寧をしていた(敬語を使っていた)。	ウグァシ トウシカサヤ アランスイガ フ ッシュヌインヤ オーウリ シュータンブ エー
111	兄さんと姉さんは、どっちが年上なの？	ムイトウ アカヤ タルガ トウシウイ° ガ
112	姉さんが兄さんより三つ(年上だ)。	アカガ ムィユカ ムィツィ
113	兄さんが年上だったの？	ムィガ トウシウイ° ヤティヤ
114	ううん、年上じゃなかった。	アラン トウシウイ° ヤ アナダティ
115	あなたが年上なの？	ウリガ トウシウイ° ヤ
116	ううん、年上じゃない。	アナン トウシウイ° ヤ アナン
117	そうそう、太郎が俺より年上だった。	ウグァシ タローガ ワンユリ トウシウ イ° ヤティ
118	(独り言のように) 太郎と花子はどっちが年上かなあ。	タロートウ ハナコヤ ダーガ トウシウ イ° ガ
119	花子が太郎より年上だと思うけど。	ハナコガ タローユリ トウシウイ° チ オ モユスイガ
120	花子が太郎より年上だったはず。	ハナコガ タローユリ トウシウイ° ヤタ ン ハズイ

121	(年上じゃないとおもっていたけど) 年上だったよ。	(トゥシウイ° アランチ オモトゥタスイガ) トゥシウイ° ヤタワ
122	私より年上の甥がいる。	ワンユリ トゥシウイ° ス' ウイボーガ' ウリ
123	佐藤さんは、年上だから、とても威張っている。	サトーサンヤ トゥシウイ° ナティ° テーゲー イバトゥリ
124	あの人が年上じゃなければ、だれも言うことを聞かない。	アン チュガ トゥシウイ° アナマ タルマ'ユン クトゥ キカン
125	年上じゃなかったから、言うことを聞かなかった。	トゥシ ウイ° アナダタトゥ'ユン クトゥ キカダティ
126	あいつが年上じゃないなら、敬語を使わなくてもいい?	アルイガ トゥシウイ° アナン ムンナティ° ウヤマワダティ'ターリ
127	(写真を見ながら) このなかで誰が年上じゃないの?	クン ナーナンティ タルガ トゥシウイ° アナンガ
128	阿部さん、年上じゃなかったの?	アベサン トゥシウイ° アナダティヤ
129	うん、年上じゃないのに、いつも威張っていた。	ウグァシ トゥシウイ° アナンスイガ イツインマ イバトゥティ
130	阿部さんが年上じゃなかったことはみんな知っていたよ。	アベサンガ トゥシウイ° アランクトゥヤ ムール シチュタンダ
131	年上じゃないから、誰も言うことを聞かない。	トゥシウイ° アナン ムンナティ° タルマ'ユン クトゥ キカン
132	もし年上だったら、もっと威張っていたかもしれない。	ヤタシ トゥシウイ° ヤティカ'ヤーヌインマ イバトゥタンカマ
133	(写真を見ながら) このなかであなたより年下は誰たちか?	クン ナーナンティ° ウラユリ トゥシシャーヤ タンダルガ
134	年上じゃないのはこの人だけだよ。	トゥシウイ° アナン チューヤ クン チュドゥヤ
135	この人、年上じゃないの?	クン チュ トゥシウイ° アナムィ
136	うん、年上じゃないが、いい人だったよ。	ウグァシ トゥシウイ° ヤ アナンスイガ'イー チュヤ'タンガ
137	年上なら年上らしくしなさい。	トゥシウイ° ヤティカ トゥシウイ° ネーシ スィ
138	ひいおじいさんとひいおばあさんは、どっちが年上じゃなかったの?	

1	熱はないけど、頭がいたい。	ネツヤ ネンスイガ カラズィガ ヤミュリ
2	蚊にくわれたところがかゆい。	ガジャンネン カマタン トーガ ユグワリ
3	けむりが たくさん でて けむたい。	ケブシガ テゲ イジティ キィ° ブワリ
4	なんだか胸が痛い。	ヌーガダーラ ニーヌ ヤミューリ
5	わきの下を さわられると、くすぐったい。	
6	朝から体がだるい。	スイトゥムティカラ カラダガ ダルワリ
7	ゆうべ 夜中 起きていたので 今日 は ねむい。	ユブィ ユツチュ ウィ° トウタトゥ キューヤ アグマリ
8	朝から何も食べていないので、とてもひもじい。	スイトゥムティカラ ヌーマ コートウラム ンナティ° ヨーシャン ツーカラン
9	雲が無いので、太陽が まぶしい。	クムガ ネン ムンナティ° ティダガ ムイ ツキャロン
10	近ごろ仕事がいそがしい。	?ナンプエー シゴトガ イシュガーリ
11	油をこぼしたので、床がすべっこい。	アンバ ハッカラチャートゥ イチャガ ス ンズリヤゲン
12	食べ物よりもお金が欲しい。	コーユン ムンユリ カネガ フシャリ
13	この集落には元気な年寄りが多い。	クン ブラクナンヤ キマイブエン アン ウ ィ° ムン チュガ フーワリ
14	男が女より少ない。	インガガ ’ ウナグユリ イツキャンダ
15	徳之島では本土人は珍しい。	トクノシマナンティヤ ヤマトウン チュヤ カワタン チュヤ
16	川は海より浅い。	コーヤ ウンユリ アサーリ
17	家族が多いから、深い汁鍋を使っている。	ヤン ニージガ フーワンムンナティ フカ ナブィ ツコトゥリ
18	近くの海は浅いが、遠い海は深い。	スバヌ ウンヤ アサースイガ トーワノ ウンヤ フカーリ
19	買ったばかりだから、まだ新しい。	コーティ スンナーティ ?ナードゥガン ミ ーアアリ
20	おじいさんが建てた家はもう古い。	フッシュガ ツクタン ヤーヤ ?ナー フル ワリ
21	この板は重くて、厚い。	クン イチャヤ オブワーティ アツィアン
22	私の家の壁は薄い	ワッキヤ ヤーヌ カベヤ ウスワリ

23	この網は目が粗い。	クン アミカ ムィガ アラーリ
24	この篩（ふるい）は目が細かい。	クン アミ カゴヤ ムィガ グニャーリ
25	花は どれも 美しい。	ハナヤ ディ° ンマ キュラーリ
26	泥がついて きたない。	ニチャガ ツーチ キサネーリ
27	化け物の顔はみにくい。	ケームンノ ツラヤ ニーグシャーリ
28	冬瓜はかぼちゃよりおおきい。	シブリヤ ツィブルユリ フテアアリ
29	レタスはキャベツより小さい。	チシャヤ タマナユリ グニャーリ
30	おとし買った上着は窮屈だ。	ニチュナティ コータン フクヤ イバーリ
31	さいきん 太ったから、この上着は窮屈だ。	?ナンプエン ケータートゥ クン フクヤ イバーリ
32	いま住んでいる家は庭が広い。	?ナー スドゥン ヤーヤ ニワガ ヒルワリ
33	今 住んでいる 家は狭い。	?ナー スドゥン ヤーヤ イバーリ
34	富士山は 井之川岳より 高い。	フジサンヤ イノーダケユリ ターリ
35	天城岳は 井之川岳より 低い。	アマギダケヤ イノーダケユリ ヒクワリ
36	家から 役場までは すくそばだ。	ヤーカラ ヤクバンテーヤ スン スバ
37	家から学校まではとおい。	ヤーカラ ガッコーンテーヤ トゥーワリ
38	牛は豚より強い	ウシヤ ?ワーユリ チューワリ
39	ネズミは猫より弱い。	ヌィズミヤ マユユリ ヤワラン
40	家の竹竿は、太くて長い。	ワッキヤ ヤーヌ デェーヤ フデーティ ナガーリ
41	この鎌の柄は細くてみじかい。	コン カマヌ jエーヤ ホソワーティ グニャーリ
42	次郎は仕事のがのろい。	ジローヤ ムン シーガ ヨーリーヨーリー
43	太郎は走るのが早い。	タロヤ ハシリガ フェーアリ
44	今日は早く起きた。	キューヤ フェアア ウイ° ティー
45	次郎は歩くのがおそい。	ジローヤ アッキガ ノロワーリ
46	寝るのが遅かった。	ネンビガ オソワーティ
47	この縄は太い。	クン ツィナヤ フトワリ

48	もう少し細い縄を持ってこい。	ナンネグァ ホソワン ツィナ ムチ チーン ネー
49	帯のしまりがゆるい。	オビヌ シマリガ ユルワリ
50	若いときは二度と来ない。	ワー ドウキィ° ンヤ ニドゥチ クン
51	あの人の妻は若い。	アン チュヌ トウジヤ ワーリ
52	私の孫はまだ若い。	ワガ マーガヤ ?ナードゥ ワーレ
53	今日は風も強くて、波も荒い。	キューヤ カズィガ チューワリ ナミマ ア ラーリ
54	満月の夜は明るい。	マンゲツノ ユールヤ アカルワリ
55	月のない夜は暗い。	ツキヌ ネン ユールカ k ラーリ
56	冷たい汁より温かい汁の方がおいしい。	ヒーシャン シルユリ イーチャン シルガ マーリ
57	お湯が冷めたから、ぬるい。	ユガ サマータートゥ ヌルワリ
58	井戸水はいつでも冷たい。	ツィンギョー ムィズィヤ イツイマ ヒー シャリ
59	太陽も出てきて今日は昨日より暖かい。	ティダガ イジティ キューヤ キヌーユリ ヌクワリ
60	今年の夏は去年の夏よりも暑い。	コトウヌ ナツヤ クズヌ ナツユティ アツ ィアアリ
61	北風が吹いて、今日は朝から寒い。	フェーカズィガ フチ キューヤ スイトゥ ムティ カラ ヒギュローリ
62	木の下影はすずしい。	キィ° ヌ カゲナン ウティカラ スデアア リ
63	つくったばかりのおつゆは熱い。	ツクタン スグヌ シルヤ イチャーリ
64	黒砂糖は、甘い。	クルザタヤ アマーリ
65	唐辛子はとても辛い。	クシュヤ カラーリ
66	唐辛子を入れたら辛くなった。	クシュ イルィタートゥ カラーリ
67	向こうの食堂は安くておいしい。	アマヌ コーユン トーヤ ヤーティ マーリ
68	熟していないバナナは渋いよ。	ウドゥラン バシャヤ シブワーリ
69	お父さんがつくる味噌汁はいつもし ょっぱい。	アジャガ ツクリュン シルヤ イツイマ ス ィーハリ
70	塩が足りなくて薄味だ。	マシュガ タランゴー ウスアアリ

71	出汁がよくきいて、味が濃い。	ダシガ ユー キチューティ アジガ コユワーリ
72	梅干しも酸っぱいけどレモンも酸っぱい。	ウメボシマ スーアング ミカンマ スーアアリ
73	よく効く薬は苦い。	ユー キキュン クスリヤ ニガーリ
74	父がつくる味噌汁はおいしくない。	アジャガ ツクリュン ミシュ シルヤ マーク ネン
75	鉄は木より重い。	テツヤ キイ° ユリ ウブワーリ
76	私は兄より少し軽い。	ワンヤ ムィユリ ?ナングァ カルワリ
77	二人目のお産は軽かった。	?ターリ ムエーヌ オサンヤ カルワティ
78	あの子はお父さんに似てふとっている。	アン ワーレヤ アジャネン ニーチ クェートゥリ
79	この子はお母さんに似て、痩せている。	クン ワーレヤ アマネン ニーチ トールィトゥリ
80	木（材木）も固いが、金属（鉄）はもっと固い。	キイ° マ クァーシィガ テツヤ ナーヌェクァーリ
81	作ってすぐの餅は柔らかい。	ツクティ スンヌ ムチヤ ヤワラーリ
82	この木はだめ。柔らかい	クン キイ° ヤ ダメ ヤワラーリ
83	この木の枝は曲がっても折れない。とても粘り強い。	クン キイ° ヌ エダヤ マガティマ ウルィラン チューワリ
84	この洗濯機は壊れやすくて質がわるい。	クン センタクキカ クンズリ ヤサーティシツガ ワッサリ
85	バラの花は、とてもいい香りだ。	バラヌ ハナヤ シッタイ イー カザグァサヤ
86	豚小屋の近くは臭い。	?ワン ヤーヌ スバヤ クサーリ
87	生木を燃やしたから、けむい。	ナマギイ° ムエーシャートゥ キイ° ブワーリ
88	車の音がやかましい。	クルマヌ ウトゥガ ユンガマラーリ
89	ラジオの音がうるさくて声が聞こえない。	ラジオノ ウトゥガ ユンガマラーティ クイ° ガ キキグシャリ
90	ハエがうるさい。	スーブエーガ ユンガマラーリ
91	子どもがまとわりついてうるさい。	クァーガ ツチ ユンガマラーリ
92	私のおじさんは怒りっぽくて気が荒い。	ワッキヤヌ 'ウ' イヤ タタリジョン キーヌ チューワリ

93	妹の花子はおとなしい。	ウナリヌ ハナコヤ ?ウェンザーリ
94	メス牛はおとなしい。	ウナン ウシヤ ?ウェンザーン
95	あの子は頭もよくて、できるやつだ。	アン ワーレヤ ウッカンガ イターティ デ キィ° ムン
96	うちの祖母は機織りのことにくわしい。	ワキャ ハンシャリヤ ハタウチノ クトゥ ンヤ カタリジョン
97	何回ことわっても家にくる。あの人 はしつこい。	ナッカイ コトワティマ ヤーカン キュー リ アン チュヤ ユンガマラーリ
98	体は小さいが（粘り強くて）しぶと い。	
99	あの子はすばしこい。	アン ワーレカ フェーアリ
100	私の牛は大きくなった。	ワキャ ヤーヌ ウシヤ フティアアリ
101	年寄り、若い人より 動くのが にぶい。	ウイ° ムン チュヤ ワー チュユリ インキ ガ オソワリ
102	この子はとても人なつっこい。	クン ワーレヤ テーゲー チュー ナレ シ ュン
103	花子さんは誰にでも好かれる。	ハナコサンヤ ダルネンマ スカリュン
104	崖は危ない。	カンパラヤ オーシャリ
105	この本はおもしろい。	クン ホンヤ ムズィラーリ
106	この本はおもしろくない。	クン ホンヤ ムズィラクネン
107	親猫に死なれた子猫をみてかわいそ うだ。	’ ウヤ マユガ シジャトゥ クアー マユ ニチガ キムチャゲン
108	（手品を見ながら）あんなところか ら水が出。てくるので、不思議なも のだ	アガシュン トーカラ ムィズィガ イジチ チャートゥ フシギナ ムン
109	傷がひとつも無くてなんともない。	キズィガ ?ティンマ ネンゴン イキヤマ ネン
110	新しくできた役所は、すばらしい。	
111	この店の品物はみんな高い。	コン ミシーヌ シナヤ ターリ
112	地元の魚はおいしくて安い。	クマヌ ?ユーヤ マーティ ヤサーリ
113	お金がなくて貧乏だった。	カネガ ネンダーティマ ビンボーダ
114	いまは暮らしも楽で金持ちだ。	?ナーヤ クラシマ ラクシ カネモチダ

115	町長はこの町で一番えらい。	チョーチョーヤ クン マチナンティ イツ イバン エラリ
116	掛け算より割り算がむつかしい。	カケザンユリ ワリザンガ ムツィムン
117	足し算は引き算よりやさしい。	タシザンヤ ヒキザンユリ シーヤサリ
118	仕事も終わったから、もう帰っていい。	シゴト オワタトゥ ?ナー カエティ ?タン
119	まだ使えるのに捨てるのはもったいない。	?ナー ドゥガン ツコワリュムン モッタイ ナイ
120	君の言っていることは正しい。	ウラガ イッチャン クトゥガ オートゥリ
121	先に手を出したお前がわるい。	サキュン ティ イジチャン ウラガ ワーサ リ
122	世の中のために良いことをした。	ヨヌ ナカノ タメン イー クトゥンブエン シー
123	うちの孫は 学校の成績が良い。頭 がいい。	
124	海は 青い。	ウンヤ アウワリ
125	デイゴの花は 赤い。	デイゴヌ ハナヤ アーリ
126	熟んだ バナナは きいろい	ウドウン バナナヤ キーアアリ
127	白米は玄米よりも白い。	シルーバンカ ゲンマイユリ シルワリ
128	カラスの羽は黒い	ガーラヌ ハヌィヤ クルワリ
129	満月は 丸い。	マンゲツヤ マルワリ
130	豆腐はしかくい	トーフヤ シカクムン
131	この石は皿のように平たい。	クン イシヤ サラネーシ ヒーラーリ
132	包丁の先はとてもするどい。	ホーチャヌ サキィ° ヤ トゥガトゥリ
133	私は 若い人が うらやましい。	ワンヤ ワー チュガ ウラマーリ
134	たくさんの人の前に出たら恥ずかし がる。	テーゲーノ チュヌ ムエーカラ イ z' イ ティカ ハーチガーリ
135	小遣をもらってとても嬉しがって いる。	クァーガヌィ モロティ シーターリ ホー ラーリ
136	小遣をもらってとても喜んでいる。	クァーガヌィ モラティ シーターリ ヨロ コドゥリ
137	赤ちゃんがオッパイを欲しそうにし ている。	バーバーガ オッパイ フーシャ シューリ

138	小遣をもらって、うれしそうにしている。	クァー カヌィ モラティ ホーラチャゲ シューリ
139	柔らかく煮た豚足はとても食べやすい。	ヤワラ ニーチャン ?ワン スィヌィヤ シー タ コーイヤサリ
140	この魚は骨が多くてたべにくい。	クン ?ユーヤ フヌィガ フーワティ コー イグシャリ
141	褒められてとてもうれしそうだ。	フムィラティ シータイ ホーラチャゲ
142	今日のごちそうは、おいしそうだ。	キューヌ シューキィ° ヤ マーチャゲン
143	(晴れた空を見て) 今日暑そうだ。	キューマ ハルイトウン ムンナティ アツ チャタリ
144	石原裕次郎はとても男らしい。	イシハラ ユージローヤ シータイ インガ ネーシ シューリ
145	吉永小百合は誰よりも女らしい。	ヨシナガ サユリヤ ダルユリマ ’ ウナグ ネーシ シューリ

1	ごめんよ、太郎、いる？	スイマンヤ タロー ウリヤ
2	ううん(違う)、太郎は いない。	アナン タローヤ ウラン
3	どこに 行ったの？	ダーカン イジャンガ
4	太郎は、朝から 畑に 芋を 掘りに いている。	タローヤ スイトウムティカラ ハッテーカー ヤン フリカン イジュンダー
5	いつ 帰ってくるの？	イツィ カエティ キーガ
6	昼前ごろ 帰ってくる。	ヒル ムエンブエー カエティ キューリ
7	ゆっくりとできるなら お茶でも 召し上がってください	ユルリトゥ サーリュティカ チャーグアヤティ ニキャギィ° ティ モールィ
8	ううん、11時までに 家に 戻らなくては いけない。	チョー シモティ ジューイチジンティ° ヤーカ ムドゥラマ イカン
9	昼ごはんを食べてから もう一度 来るね。	アッスイ コーティゲエン アトゥシ ユリュサヤ
10	私は 今日は 忙しいから、だれか 役場に 行ってくれないかなあ？	ワン キューヤ イシュガンムンナーティ° タルカ ヤクバカ イジ キィ° ランカヤ
11	役場へは 私たち 二人で 行ってもいいよ。	ヤクバカンヤ ワッキヤ ?ターリシ イジマ ?タンダ
12	車が 無いから バスカ タクシーで 行こう。	クルマガ ネンムンナーティ° バスカ タクシーシ イカヤ
13	小銭が 無かったので、紙幣を 硬貨に 替えて もらった。	ファー ガヌィガ ネンムンナーティ° フー ガヌィ<オ> クンジャチ モロタン
14	芋を売って金を作った。	ヤン ウティ カヌィ ナチャン
15	あ、バス 来たよ。	アネ バス チャンダ
16	えっ、こんなに 早く バスが 来たの？	エチョ ウグァシガン フェーク バス チャーヤー
17	うん。今 来たんだよ。	ウグァシ ?ナー チャンダー

18	さあ、あの バスに 乗ろう。	キュ アン バスカ ヌラディ
19	わたしの 鍬 その辺に ある？	ワハ トンギィ° ン ウン グルイナン ネームィ
20	どこを さがしても 鍬が 無いんだよ。	ダー トウムエティマ トンギィ° ンガ ネーラン
21	あった。あった。ここに あったよ。	アティ アティ クマナン アティ
22	どれが おまえの 鎌だ？	ディ° ンガ ウラガ カマガ
23	その 柄の 短い 鎌が 私の だ。	ウン ’ イーヌ ツィキャハン カマガ ワン ムンダー
24	この 柄の 長い 鎌は 三郎の か？	クン ’ イーヌ ナガーン カマヤ サブローヌ ムンセー
26	ううん、それは 弟の 鎌じゃない。	アナン ウルィヤ ウットウヌ カマ アナン
27	この 鎌は 三郎の 鎌じゃないのか？	クン カマヤ サブローノ カマ アナンヤ
28	うん、それは 弟の 鎌じゃない。	ウグァシ ウルィヤ
29	じゃあ、この 鎌は 誰のだ？	ウグァシカ クン カマヤ タルガ ムンガ
30	それは おじいさんの 鎌かもしれない。	ウルィヤ フッシュヌ カマ<カモ> ワカラン
31	太郎は あした 那覇へ 友だちに 会いに いくってよ。	タローヤ アッチャ ナワカチ ドウシヌ イン オーイガ イキチダ
32	ここから 那覇までの 船賃はいくらなの？	クマカラ ナワンティ° フナチンヤ イキサーガ
33	全部で 五千円ぐらいだろう。	ムールシ ゴセンエンブエン アナムィ
34	沖縄に 行くのは 飛行機でなくて 船で 行くのが 安い。	ナーワカン イキュンムンヤ ヒコーキシ アナンゴン フヌィシ イz’ イカドウ ヤッサン
35	そうだけど 船は 一日に 一回だけ ある。	ウグァシ ヤスィガ ?チーナン ?チュケーリドウ アンダ
36	港へは こっちこそが 速い。	ミナトウカヤ クマカードウ フェーリュンダ

37	車が 来るから、道の まんなかを あるいては いけない。	クルマガ キュンムンナティ° ミチヌ マンナー アッチカ イカンダ
38	港で 甥の 五郎に 会った。	ミナトゥナンティ° ウイボーヌ ゴローヌィ オータン
39	那覇からの 船に 乗って来たんだって。	ナワカラヌ フヌィナン ヌティ チャンチ
40	五郎は 日曜日まで 島に いて、月曜日に 帰るってよ。	ゴローヤ ニチヨービンティ シマナン ウティ ゲツヨービ カエリユンチダ
41	それで お宅の お孫さん 小学生だったよね。	シャートゥ ウチガ マーガグァ ショーガクセーンブエー ヤッティヤ
42	うん、去年から 小学校に 通っているよ。	ウグァシ クーズカラ ショーガッコーカン イジュンダ
43	孫は 目と 口が 私に よく似ているよ。	マーガヤ ムイトゥ クチガ ワンネン ユー ニチャンダ
44	ここは 海に ちかいので 魚が うまい。	クマヤ ウンナン ツィキャムナティ° ? ユーヌ マーリ
45	一郎は 朝から 海へ 魚を とりに いった。	イチローヤ スイトウムティヤラ ウンカン ?ユー トゥリガン イ z' イ
46	おまえは この 魚の 名まえを知っているか？	ウルィヤ クン ?ユーヌ ナー シーチュンセー
47	これは サバだろう？	クルィヤ サバン ?ユーダ
48	うん、 そうだよ。 サバだよ。	ウグァシ サバン ?ユーダ
49	肉より 魚の ほうが おいしい。	?ワーシユリカ ?ユーノ フードゥ マーハンダ
50	私は タコの さしみが 食べたい。	ワンハ トーノ サシミガ コーイチャーリ
51	刺身も おいしいけど、 焼いた魚こそが おいしいよ。	サシミマ マーハスイガ ヤッチャン ?ユー ドゥ マーハンダ
52	酒は どうやって つくるか おまえは 知っているだろう？	サキィ° ヤ イキヤーシ ツクリカ ウラヤ シッチューリヤ
53	うん。酒は サトウキビから つくられるよ	ウンイエー サキィ° ヤ ' ウギィ° カラツクラリユンダ
54	私は 酒さえ あれば 他には なにも いらない。	ワンヤ サキィ° セー アッティカ ヌーマ イラン

55	二郎は 酒も 飲まないし、たばこも 吸わない。	ジローヤ サキィ° マ ヌマンシ ターク マ フカン
56	雨の ふる 日には 太郎は 家で テレビばかり 見ているよ。	アムィノ フリュン ヒーヤ タローヤ ヤ ナーティ° テレビブエン ニチュンダ
57	おれは さつまいもなんか 食べないぞ。	ワンヤ ヤンキャ コーワンダ
58	食べて ねるだけなら いぬやねこと 似ているばかりだ (同じ様なものだ)。	コーティ ネンビュン<ダケ> ヤッティカ インヤ マユトウ ' インサンブエン
59	たまには お父さんの 手伝いをしろ。	トゥキナンヤ アジャヌ カシー スィー
59b	たまには お父さんの 手伝いを しろ。	トゥキナン ヤ アジャヌ カシ サンムン
60	太郎、この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。	タロー クン ニー ヤー ヤーンテン カ ティティ イジクィ° レ
61	荷物が 重いので、二郎と 二人で もっても いいか？	ニース ウブワンムンナーティ° ジロー トゥ ?ターリシ ムチ ?ターリキャ
62	いとこの 花子は 英語の 本が 読める。	イトウクノ ハナコヤ エーゴヌ ホンガ ユマル
63	私は 花子に 英語を 教えてもらった。	ワンヤ ハナコネン エーゴ<オ> カタテ ィ ムルティ
64	去年 花子が 中学の 先生 (lit. 教える人)に なった。	クーズ ハナコガ チューガクヌ カタリ ュン チュカナン ナーチ
65	二郎は 小遣いの ことで おとうとの 三郎と けんかした。	ジローヤ クワカヌイグアシ ウットウト ウ サブロートゥ トロティ
66	三郎は 二郎に げんこつ 頭を なぐられた。	サブローヤ ジローニ ティ° ングブ カ ラズィ ウタタン
67	二郎と 三郎は 喧嘩の ことで じいさんに しかられた。	ジロートゥ サブローヤ イークサティ/ ノロワティ
68	その 話は 妻だけに 聞かせた。	ウン ハナシヤ トウジネンブエン キカ チ
69	あ、雨 (が) ふってきた。	ア アムィガ フティ チー
70	やねの 上に いとこの 布団が ぼしてあったよ。	ヤン チジヌ ウィ° ナン イトコノ フト ンハ フッチ アッタンダ
71	あーあ、布団が 雨に 濡れて びしょびしょ。	アーア フトンヌ アムィ シッターティ ビショビショ

72	きのうは 風が 強かったねえ。	キヌーヤ カズィガ チューワータサヤ
73	あれ、部屋の 中に 枯葉が 入っているよ。	アレ ヤーヌ ナーナン カルィタン ファーガ フェーチューリ
74	あの 開いた 窓から 入ったんだよ (入ったにちがいない)。	アン アチュン マドゥカラ フェッチャン アレー
75	ほら、真っ白な 鳥が 空を 飛んでいるよ。	ホラ シルワン トゥリガ ソラ<オ> トウドゥリ
76	あの 羽の 白い、くちばしの長い 鳥は なんだろう。	<アノ> ハヌィヌ シルワン クチハシヌ ナガトゥリヤ ヌーガヤー
77	あの 鳥は シラサギかもしれないね。	アン トゥリヤ シラサギ ハズィダ
78	北海道 広かったねえ。	ホッカイドーヤ ヒルワタサヤ
79	うん。食べ物も おいしかったねえ。	ウン コーユムンガ マータサヤ
80	北海道には クマが いるそうだね？	ホッカイドーナンヤ クマガ ’ ウンチャ
81	うん。シカも フクロウも いるらしいよ。	ウグァシ シカマ ツィクマ ’ ウンチャ
82	北海道には めずらしい 菓子がたくさん あった。	
83	この お菓子は いくらで 買ったの？	クン クァーシ イキサーシ コータンガ
84	この お菓子は 北海道で 二千円で 買った。	クン クァーシヤ ホッカイドーナンテイ° ニッセンエンシ コーティヨ
85	おみやげは おばあさんから 先に 上げた。	ミヤゲムンヤ ハンシャルィカラ サキニネーティ
86	ばあさんのと おなじ おみやげを 花子にも かってやった。	ハンシャルィトウ ニーチュン ムン ミヤゲ ハナコネンニマ コーティ ネーティ
87	孫たちに あげる つもりで 菓子を 買って あった。	マーガグァネン ネンリュン スズシ クァーシ コーティアタン
88	お菓子は 箱の 中に いくつあると おもう？	クァシヤ ハクヌ ナーナン イクツィ アンチ オモユンガ
89	やっつぐらい じゃないかな。	ヤーツィンブエン アラムィ

90	四つしか 残っていないよ。	ユーツイドゥ ノートウンダ
91	台所に 行ったら お母さんが スイカを 切ってあった。	シルブィカ イジャトゥ アマガ クダモ ノ キチ アティ
92	(包丁があるのをみて) この 包 丁で 切ったはず。	クン ホーチャシ キチャン ハズィ
93	おまえ、かごは どうやって 作 るか 分かるか?	ウラヤ カグヤ イキヤーシ ツクリュン カ ワカリュンセ
94	小刀で 竹を 削って つくると おもう。	クァーホーチョーシ デュー キイ° ズィ ティ ツクリュンチ オモユリ
95	稲刈りの ときには 子どもにま で 手伝わせる。	’ ウギ トーシン ドウキンヤ ワーレン ティン サーシュリ
96	花子は きのうから 病気で ね ている。	ハナコヤ キーヌカラ ヤミ シー ヌイン ドゥリ
97	花子は かあさんに ごはんを たべさせて もらっている	ハナコヤ アマヌイン ウバン コーチ モ ロトゥリ
98	花子は お粥しか 食べられなか った。	ハナコヤ ヒキバンドゥ コーラティ
99	医者が くれた くすりを のめ ば なおるだろう。	イシャヌ クイ° タン クスリ ヌーディ カ ノーリュリ
100	病気を 治すには たくさん 食 べて、 十分 寝なければならない。 い。	ヤミ ノーシ ヤティカ テーゲー コーテ ィ ワンムィ ヌインバマ イカン
101	そこには 女しか 入れない。	ウマカヤ ’ ウナグドゥ イラリュリ
102	男なら 赤ちゃんでも 絶対に 中には 入れない。	’ インガ ヤティカ バーバー ヤティマ イキャ シャンテン ウンガ ナーカチャ イララン
103	教えてもらわなければ なかに 入っていた。入っていたにちがい ない。(実際には、入らなかつ た)	カタティ モロワマ フェッチ イジュタ ンハズィ
104	石と 石の 間から 水が 湧い ている。	イシトゥ イシヌ エーカラ ムィズィガ ワチュリ
105	この 水、沸かした 水より 美 味しいよ。	クン ムィズィ ワカチャン ムィズィ ユ カ マーハリ
106	ほら、ひとくち 飲んでみて。	ウネー ?チュクチ ヌーディンネー

107	花子も お菓子が 好きかもしれない。	ハナコマ クァシガ スキュンカマ シラ ン
108	和子と 花子は 友だちだ。	カズコトゥ ハナコヤ ドウシダ
109	(タバコの吸い殻をみて) 先生は ここに 居たんだ。	(タークヌ スイガラ ニーチ) センセー ヤ サキンティ クマナン ' ウタンブエ ー
110	人は 生きる ために 働かなければ ならない。	チューヤ イキリユン タムイ ハタラカ マ イカン
111	食べやすい ように お母さんが 団子を 串から 外して あっ た。	コーイヤッサンガネー アマガ ダンゴ< オ> クシカラ ハズーチ アティ
112	おとななのに 卵焼きさえ 作れ ないのか？	フーチュ ヤンムン クガヤキ チョン ツ クラランヤ
113	いつも お母さんに つくっても らっていたから 何も 作れな い。	イツィマ アマヌイン ツクティ モロタ トゥ ヌーマ ツクララン
114	まだ 一度も 作ったことが な い。	?ヤン ?タン ツクタン クトゥガ ネン
115	私でさえ 持てないのに、 おま えには 持てないよ	クン ニモツヤ ワン ヤティマ ムタラン ムン ウラヌインヤ ムタラン
116	友だちとの 約束は 守らなけれ ばならない。	ドウシトゥヌ ヤクソクヤ マモラマ イ カン
117	あの 人こそ 金持ちだ。	アン チュドゥ カヌィ ムチ